

大学オンライン 番組ライブラリー

<https://www.nhk-ep.co.jp/daigakutv>

利用の手引き **2025秋版**

何を見ていいかわからない、という声にお応えして、28のテーマを選んで番組を紹介する冊子を作成しました。授業内容をより理解するために、レポートの題材探しに、一般教養を深めるために、どうぞ活用ください。



INDEX

1 AIとロボットが変える世界	1
2 フロンティア＝最前線に立つ	3
3 平安時代を読み直す	5
4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！	8
5 映像はウソをつく!?	10
6 SNSの功罪 溢れる「情報」 失われる何か	13
7 気候変動について学ぼう	16
8 「ヒト」って何？	18
9 「進化」について考えてみよう	21
10 人体の不思議を学ぼう	24
11 農業・お金の発明でヒトは変わった？	26
12 伝染病と人類について考えよう	28
13 数理の好奇心を極める	30
14 「お金」って何？ 「資本主義」ってどうよ	33
15 貧富の差について考えてみよう	35
16 権力者たちの思考回路	37
17 揺らぐ「民主主義」	40
18 「グローバル化」の功罪	43
19 スーパーパワー アメリカの大統領たち	45
20 イスラム教って何？	47
21 移民と難民について考えてみよう	49
22 日本の「戦争」と「組織」について考える	51
23 焼け跡からの再建	54
24 「高度経済成長」とは何だったのか	56
25 無名の挑戦者たち	58
26 患者に寄り添う「医」の心	61
27 自分自身を見つめる	64
28 恋に悩む若者たちよ	67

01. AIとロボットが変える世界

自律的なAIが人類を超える知性を持つことはあるのでしょうか？

その仮説では“シンギュラリティ”が訪れるのは「2045年」も言われています。その時、人類社会の有様を変える大きな変化が起きるとあると予想されています。そして、私たちの身近なところでも、ChatGptに代表される生成AIの進化が、社会に生活に大きな影響を与えています。

そのAIがロボットに搭載されたら？ 人間を超える能力を持つロボットに“人間並み”の知性＝AIが搭載されれば、無敵の“超人類”が誕生するのでは？？

“未来”、いや“近未来”の話と考えていた変化が、すぐそこに来ているのかもしれません。このライブラリーでは、AIとロボットが「今どうなっているのか」、その一端を垣間見ることのできる番組をラインアップしました。

インタビューに答えてくれるAI搭載のロボット。生成AIが作るマンガのストーリー。AIが判断し、人を傷つけるための攻撃を実施する兵器たち…。

AIもロボットも”機械”なのかもしれませんが、自ら判断し、自ら行動する「自律型」の存在として私たちの目の前に現れているのです。AIとロボットがどうやって生み出されてきたのか。そして私たちはどう向き合えばいいのか。その技術を使いこなせるのか、それとも支配されてしまうのか？今、そこにある“未来”を、番組を通じて感じとってください。

フロンティア

AI 究極の知能への挑戦



人間の知能に匹敵する“究極の人工知能”の開発が世界中で進んでいる。最新型AIロボットとのAIの可能性についての対話や、AIが漫画の神様・手塚治虫の「ブラック・ジャック」の新作を“創作”する現場を紹介、最先端のその先に人間の知能の驚くべき本質が見えてくる。

BS世界のドキュメンタリー

フラッシュ・ウォー 自律型致死兵器システムの悪夢



ウクライナの戦場にはAIに制御される自爆型ドローンが投入されている。AIが判断して攻撃する「自律型」の兵器は、人間の尊厳を無視した方法での攻撃もためらわない。それが世界中に配備された時、誰も望まない戦争（フラッシュ・ウォー）が起きる懸念も指摘されている。AIがもたらした「軍事革命」。そのすさまじいスピードと実態を追う。

フランケンシュタインの誘惑 E+

超人類 ヒトか？ 機械か？



いま、機械と人間の融合によって人間の力を超えた「超人類」が生まれようとしている！ 20世紀に本格化するロボット開発は、人間と機械の融合＝サイボーグ研究へと進み、ついに人間の脳と不死身のボディーをもつ「超人類」を目指すまでになった。その目的は「戦争」、そして「不老不死」。「超人類」が生まれる日、果たしてそれはヒトなのか？機械なのか？

1 AIとロボットが変える世界

2 フロンティア＝最前線に立つ

3 平安時代を読み直す

4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！

5 映像はウソをつく!?

6 SNSの功罪 溢れる「情報」 失われる何か

7 気候変動について学ぼう

8 「ヒト」って何？

9 「進化」について考えてみよう

10 人体の不思議を学ぼう

11 農業・お金の発明でヒトは変わった？

12 伝染病と人類について考えよう

13 数理の好奇心を極める

14 「お金」って何？ 「資本主義」ってどうよ

15 貧富の差について考えてみよう

16 権力者たちの思考回路

17 揺らぐ「民主主義」

18 「グローバル化」の功罪

19 スーパーパワー アメリカの大統領たち

20 イスラム教って何？

21 移民と難民について考えてみよう

22 日本の「戦争」と「組織」 について考える

23 焼け跡からの再建

24 「高度経済成長」とは何だったのか

25 無名の挑戦者たち

26 患者に寄り添う「医」の心

27 自分自身を見つめる

28 恋に悩む若者たちよ

あなたの顔は大丈夫？ 最先端“顔認証システム”が危うい



監視カメラが犯罪摘発に効果をあげている。しかしその映像で今あなたがどこにいるか特定されるとしたら？インターネットやSNSの写真から「顔」情報を集め、AIが分析しデータベースを構築、瞬時に「誰か」を特定するシステムも動き出している。本人の同意なく「顔」情報が集められている？あなたはその危険性に気付いている？世界で急速に進む「顔」情報を巡る“怖い”最前線をドキュメント。

嘘やヘイトもカネになる ネット自動広告取引の闇



インターネットを見ると表示される広告。でも、なぜこの広告があなたのスマホに出て来るのか、その仕組みを知っていますか？ 偽情報やヘイトスピーチを発信するサイトに、世界的な有名ブランドの広告が掲載される事態が起きた。ところが広告主も「どんなサイトに広告が出るのか」把握しきれないという。プラットフォームの対策は十分なのか？巨大な規模となったネット広告の“闇”に迫る。

私のまわりはサイボーグ



「ブレードランナー」、「攻殻機動隊」…数々のSF作品で描かれたサイボーグ。体にICチップを埋め込めば、手をかざすだけで支払い完了、失った手足、聴覚、色覚を取り戻し、脳の病気すら回復する時代がやってきた。サイボーグ技術の倫理を考え、未来の社会をのぞこう。

第4回 私とあなたの間にある倫理



第4回のテーマは「倫理」。ロボットは意思を持つのか。仮想空間で永遠に生きられるか。デジタルテクノロジーに心を支配され、機械と人間の境界が危くなる時代の、切実な倫理の問題とは？ 現代社会に広がる心の病、現代人の心と脳の問題を解くヒントを哲学しよう。

1 AIとロボットが変える世界

2 フロンティア＝最前線に立つ

3 平安時代を読み直す

4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！

5 映像はウソをつく!?

6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か

7 気候変動について学ぼう

8 「ヒト」って何？

9 「進化」について考えてみよう

10 人体の不思議を学ぼう

11 農業・お金の発明でヒトは変わった？

12 伝染病と人類について考えよう

13 数理の好奇心を極める

14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ

15 貧富の差について考えてみよう

16 権力者たちの思考回路

17 揺らぐ「民主主義」

18 「グローバル化」の功罪

19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち

20 イスラム教って何？

21 移民と難民について考えてみよう

22 日本の「戦争」と「組織」
について考える

23 焼け跡からの再建

24 「高度経済成長」とは何だったのか

25 無名の挑戦者たち

26 患者に寄り添う「医」の心

27 自分自身を見つめる

28 恋に悩む若者たちよ

02. フロンティア＝科学の最前線に立つ

科学・研究の最前線＝フロンティアに立つと、何がわかるのでしょうか。
何が生み出されようとしているのか、そして何が生み出されてきたのでしょうか。

今、フロンティアに立つ研究者、そしてフロンティアを切り開いてきた科学技術の歴史を紐解く6本の番組をラインアップしました。

「フロンティア」。“最先端を切りひらく者にしか、見えない景色がある”というコメントで始まります。日本人のルーツ、AI、東洋医学、そして21世紀の日本に誕生した新しい火山島、それぞれ現代の科学が挑む最前線の研究を追います。

「フランケンシュタインの誘惑E+」。科学技術が生み出したもの、その功罪を描く科学史ドキュメントです。2022年、アカデミー賞7部門を受賞した映画「オッペンハイマー」に描かれる原爆の開発を指揮した科学者たちの“罪と罰”を追った「原爆誕生」、そして現代のロボットとAIの融合につながる“サイボーグ”誕生の歴史をたどります。

どの番組も、フロンティアに立つ研究者の情熱や関心の赴く先が、研究者自身のことばで語られています。研究に情熱を注ぐのは科学者という人間です。業績を見るだけでなく、そこに至るモチベーションや達成感こそが、フロンティアに向かうエネルギーです。

研究者を目指す人、科学技術に関心を持つ皆さんも、時空を超えて広がるフロンティア＝最前線に立ってみてください。

フロンティア

日本人とは何者なのか



私たち日本人のルーツは？ そのカギを握るのは発掘された古代人の骨。そこから抽出されたDNAを解析することで大量の情報を読み出すことが可能になり、新発見が相次いでいる。アフリカで誕生した人類が日本に到達し、日本列島に独自の文化を生み出してゆくまで、数万年の長い道程を、最先端の科学技術が解き明かす。

フロンティア

AI 究極の知能への挑戦



人間の知能に匹敵する“究極の人工知能”の開発が世界中で進んでいる。最新型AIロボットとのAIの可能性についての対話や、AIが漫画の神様・手塚治虫の「ブラック・ジャック」の新作を“創作”する現場を紹介、最先端のその先に人間の知能の驚くべき本質が見えてくる。

INDEX

1 AIとロボットが変える世界

2 フロンティア＝最前線に立つ

3 平安時代を読み直す

4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！

5 映像はウソをつく!?

6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か

7 気候変動について学ぼう

8 「ヒト」って何？

9 「進化」について考えてみよう

10 人体の不思議を学ぼう

11 農業・お金の発明でヒトは変わった？

12 伝染病と人類について考えよう

13 数理の好奇心を極める

14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ

15 貧富の差について考えてみよう

16 権力者たちの思考回路

17 揺らぐ「民主主義」

18 「グローバル化」の功罪

19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち

20 イスラム教って何？

21 移民と難民について考えてみよう

22 日本の「戦争」と「組織」
について考える

23 焼け跡からの再建

24 「高度経済成長」とは何だったのか

25 無名の挑戦者たち

26 患者に寄り添う「医」の心

27 自分自身を見つめる

28 恋に悩む若者たちよ



鍼(はり)、お灸(きゅう)、そして漢方薬。今、世界が注目する東洋医学。治療の効果がなぜ生まれるのか、そのメカニズムも明らかになってきた。人類が数万年以上をかけ、育んできた経験に基づく医療、東洋医学。時空を超えてその最前線を訪ねてみると、そこは驚きの連続が！



東京都心からおよそ1000キロ、小笠原諸島にある無人の火山島、西之島。2013年からの噴火で溶岩流が堆積して“成長”した新しい陸地だ。火山活動が続く中で生き物たちはどう生きているのか？島はどう姿を変えて行くのか？人類が初めて見る“生まれたての島”で何が起きているのか、原始の大地の姿を目撃しよう。



「原爆の父」ロバート・オッペンハイマー。第2次世界大戦中、原子爆弾の開発プロジェクト“マンハッタン計画”のリーダーだ。ナチスドイツに先を越されないために始まった原爆開発が、なぜドイツ降伏後も続けられ、広島・長崎に投下されたのか？科学者たちは何を考え、行動したのか？核兵器開発に携わった科学者たちの「罪と罰」に迫る。



いま、機械と人間の融合によって人間の力を超えた「超人類」が生まれようとしている！20世紀に本格化するロボット開発は、人間と機械の融合＝サイボーグ研究へと進み、ついに人間の脳と不死身のボディーをもつ“超人類”を目指すまでになった。その目的は「戦争」、そして「不老不死」。「超人類」が生まれる日、果たしてそれはヒトなのか？機械なのか？

1 AIとロボットが変える世界

2 フロンティア=最前線に立つ

3 平安時代を読み直す

4 タイパが高い！見るだけで“読む”！

5 映像はウソをつく!?

6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か

7 気候変動について学ぼう

8 「ヒト」って何？

9 「進化」について考えてみよう

10 人体の不思議を学ぼう

11 農業・お金の発明でヒトは変わった？

12 伝染病と人類について考えよう

13 数理の好奇心を極める

14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ

15 貧富の差について考えてみよう

16 権力者たちの思考回路

17 揺らぐ「民主主義」

18 「グローバル化」の功罪

19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち

20 イスラム教って何？

21 移民と難民について考えてみよう

22 日本の「戦争」と「組織」
について考える

23 焼け跡からの再建

24 「高度経済成長」とは何だったのか

25 無名の挑戦者たち

26 患者に寄り添う「医」の心

27 自分自身を見つめる

28 恋に悩む若者たちよ

03. 平安時代を読み直す

今から1230年ほど前、京都に都がおかれてから約400年間は、平安時代。

2024年、藤原道長と紫式部という平安時代を代表する二人の人物を主人公に、NHK大河ドラマ「光る君へ」が放送されました。「源氏物語」に描かれた雅の世界に惹かれた方も多いのではないのでしょうか。

平安時代は、現代の日本文化の基盤となる多くの文化を生んだ時代です。ひらがなカタカナなどの文字、ひな祭り、端午の節句などの伝統行事だけでなく、日記をつける習慣やペットとして猫を飼うことも、平安時代に始まった文化と言われます。そしてこの時代には、人間の普遍的な喜びや悲しみを描き、現代の人々も共感する多くの文学作品が生まれました。

このライブラリーでは、「100分de名著」という番組を通じて、平安時代に生まれた作品を3つ紹介します。そこに登場するのは、文と和歌のやり取りが生む恋心(まるでSNSの恋愛?)だったり、コンプレックスに悩む男性(草食系男子は平安時代にも?)だったり、「日本で一番古い物語」が実はSF小説だった?と、1000年も前とは思えない“共感”と多様性に満ちた世界が広がっているのです。

平安時代を「読み直す」ことで、時空を超えて、現代を生きる皆さんに通じる“物語”を見つけてください。

100分de名著

紫式部『源氏物語』 第1回 光源氏のコンプレックス



約1000年前に書かれた世界最古の長編小説。聡明さと美貌に恵まれる光源氏が、強い上昇志向を持ち、高位の女性との禁断の恋に走ったのは、コンプレックスからだった。単なる恋愛遍歴のストーリーではなく、政治小説の側面からも、多層的な源氏物語の全体像を明らかにしていこう。

100分de名著

紫式部『源氏物語』 第2回 あきらめる女 あきらめない女



シンデレラのように「玉の輿」に乗れたとしても、幸せとは限らない。嫉妬に狂う年上のインテリ女、幼い頃に無理やり連れ去られ、愛されながらも子を持たない女…光源氏に愛されたさまざまな境遇の女たちは、すべては手に入れられず、葛藤を抱えながら何かを諦めて生きている。女性にとって諦めの意味とは？

100分de名著

紫式部『源氏物語』 第3回 体面に縛られる男たち



人生の後半で最高の栄達を遂げる光源氏だが、若い頃と異なり、女性たちを自由にできなくなる。妻や愛人を寝取られ、長年連れ添った理想の女性・紫の上ともすれ違いが。妻の密通で生まれた子を我が子として抱く運命。世間的な体面を気にしながらも、女に執着する主人公の未練と弱さを見つめていこう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

紫式部『源氏物語』 第4回 夢を見られない若者たち



光源氏の死後の「宇治十帖」は、恵まれた環境で育った草食系貴公子たち(光源氏の子と孫)と、宇治に暮らす3人の姫君たちが織りなす悲恋の物語。恋に苦しみ入水自殺を図った浮舟は、一見か弱く見えながら、しっかりと自我を見つめ、作者・紫式部が自己を投影させたとも言われる。現代の恋愛事情との共通点を探っていこう。

伊勢物語 第1回 「みやび」を体現する男



「むかし、男ありけり」。天皇の血を引きながら権力への道から外れた実在の貴族・在原業平をモデルに、エネルギーのすべてを女性と和歌につぎ込んだ「みやび」な男の人間的魅力に迫ってみよう。それぞれの女性の心に見事に寄り添う華麗な振る舞いと絶妙な詩心。カッコいいメッセージの送り方が学べるかも。

伊勢物語 第2回 愛の教科書、恋の指南書



天皇の后となる高貴な姫との駆け落ち。神に仕える斎宮とのタブーをいとわぬ禁断の恋。業平が繰り広げた数々の恋愛の物語を「愛の教科書」「恋の指南書」として読み解いてみよう。自分の恋情ではなく、相手の話に耳を傾け、相手の幸せを願う業平は、軽薄なだけのプレーボーイではありません。

伊勢物語 第3回 男の友情と生き方



上司、先輩、同僚…業平は女性だけでなく男性にも愛された。出世争いからはじかれた業平と深い友情で結ばれた男たち。挫折や人間関係のこじれ、世間から取り残された寂しさを抱いた男たちは、謙虚で誠実な人柄と、細やかな情愛と共感を綴りこんだ和歌に、癒され励まされていく。同性から見てもカッコいい男だ。

伊勢物語 第4回 歌は人生そのもの



「つひに行く道とはかねて聞きしかど 昨日今日とは思わざりしを」。晩年の業平は老いや死をどう受け止めたのだろうか。若き日、恋に燃えた前皇妃・高子と再会し、年齢を経てきた彼女の艶やかさ美しさを讃える。悲嘆も絶望もせず、相手を讃える包容力。古典を楽しみながら、きみたちの生きる糧としよう。

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

「竹取物語」木下裕一(準備中)



これでもかこれでもかとストーリーテリングの魅力を詰め込んだ『竹取物語』。細部には驚きのエピソードとさまざまな人間ドラマが巧みに織り込まれている。この作品をSFととらえると、その楽しみ方が何倍にもなるという木ノ下裕一さんに、古典作品のとてつもない豊かさを教えてもらおう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

04. タイパが高い！見るだけで“読む”！

「聞いたことはある」「読んでみたいけど難しそう」「もしかしたら面白いかも？」

“名著”と呼ばれる作品には、世界で愛され、長く読まれてきた魅力があります。そんな1冊の名著を、25分×4回、つまり100分で読み解く番組「100分de名著」。読むだけでも時間も労力もかかる古今東西の名著を、短い時間で読み解くことができる。「タイパ」の高さがこの番組の特徴です。

2025年には、6作品を「読み解く」番組を新たにラインアップ。25分1本で1作品を語るシリーズも加わりました。このライブラリーでは合わせて17の古今東西の“名著”を「見て 読む」ことができるようになりました。

番組を見れば読まなくても良いとは言えませんが、見るだけで“名著”の魅力、その世界を感じ取れるはずです。決して損はさせません！ 何たって「タイパ高い」んですから。

100分de名著forユース

学び続けることの意味 シュリーマン「古代への情熱」



トロイア戦争を絵本で読んだ少年シュリーマンは、美しい古都が必ず地下に埋もれていると信じて、その発掘を志す。驚異的な努力で十数力国語を身につけ、やがてその夢を実現する。あくなき学びの精神が持続できた理由とは？ 学業にあっても仕事にあっても、創造的に学び続けていく意味を考えよう。

100分de名著forティーンズ

トルストイ「人は何で生きるのか」若松英輔



雪の中で行き倒れていた青年を引き取った貧しい靴屋の夫婦は、人生にとって最も大切なことを教えてもらうことに。青年は神が地上に送った天使ミハイルだった。自己犠牲や他者への思いやりこそが、生きる力であると、ロシアの文豪は民話というスタイルで分かりやすく語りかけてくれる。

100分de名著forティーンズ

「竹取物語」木下裕一（準備中）



これでもかこれでもかとストーリーテリングの魅力を詰め込んだ『竹取物語』。細部には驚きのエピソードとさまざまな人間ドラマが巧みに織り込まれている。この作品をSFととらえると、その楽しみ方が何倍にもなるという木ノ下裕一さんに、古典作品のとてつもない豊かさを教えてもらおう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

ブッダ 最期のことば 第1回 涅槃への旅立ち



80歳を迎えたブッダは、死が近いことを悟り、故郷を目指して最後の旅に出る。その途上に説かれた教えは、自分の死後、自らの教えや教団が後世に伝わるようにと、仏教と組織維持の知恵のエッセンスが込められている。ブッダが「自己鍛錬システム」として説いてきた仏教の本質を読み解いてみよう。

ブッダ 最期のことば 第2回 死んでも教えは残る



「私がいなくなっても真理の法は生きている。自らを灯明とし、自らを抛り所としない」。リーダーが不在となっても修行を続けよと説くブッダ。遊女の招待も受け、身分の貴賤を問わず絶対平等の立場で行動し続ける最晩年のブッダの逸話を通じて、「生き方の指針」を読み解いてみよう。

ブッダ 最期のことば 第3回 諸行無常を姿で示す



ブッダは死の直前、これまで説いた教えのエッセンスを命を削りながら伝える。鍛冶屋がお布施として提供した食事で死んだとされる。「涅槃に入る前の最後の施食は、大きな果報と功德がある」と鍛冶屋をかばい、最期の時まで慈悲を貫く。そして自分自身の死によって「諸行無常」の真理を示した。

ブッダ 最期のことば 第4回 弟子たちへの遺言



沙羅双樹の樹の下に横たわったブッダは弟子たちに遺言ともいうべき言葉を語り始める。「修行の大切さ」「時代に合わせて戒を柔軟に運用すること」。死後、信者たちが困らないようにと細かい心配りを見せながら荘厳な死を迎える。仏教が2,500年以上も存続してきた秘密に迫る。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

05. 映像はウソをつく!?

みなさんは毎日のようにSNSを使っていることと思います。十年ほど前はテキストが中心だったSNSですが、写真や動画が投稿されるようになり、さらに写真や動画に特化したSNSがぐんぐんシェアを伸ばしています。検索にGoogleを使う若者は減り、TikTokやPinterest、Instagramなど、写真や動画が中心のサイトが使われる機会が増えています。私たちの生活は映像であふれています。

写真やフィルムが発明される前から、宗教家や政治家は自らの権威づけのために映像を活用してきました。20世紀は映像の世紀。映像は巧妙なストーリーテリングを施され、宣伝戦、心理戦に使われていきました。

第二次世界大戦では心理戦が大きな役割を果たしました。味方を鼓舞し、占領地の人々を宣撫し、敵を挫く。映像の使い方は巧妙になっていきます。戦後も東西冷戦下で秘密と嘘、猜疑の時代が続きました。

2022年2月、ロシアがウクライナに侵入。まもなく、ウクライナ・ゼレンスキー大統領が、自国兵士に向かって、武器を置くよう呼びかける映像がネット上で流れ、まもなく削除されました。これは実は、本人の声色に似せた発声に合わせて、リップシンクロさせた、AIが生成した精巧なCG映像でした。こうした「ディープ・フェイク」映像は、今日の技術で簡単にでっちあげることができます。

ロシアがウクライナに侵攻すると、市民たちは自撮りも含めて大量の映像をSNSに投稿しました。誰もが撮影し投稿できる時代。家族との別れ、戦場に赴く肉親へのいたわり、苦境の中で小さな日常にひそかな楽しみを見出す日々…同時代に生きる私たちは、戦争のリアリティを市民たちが投稿した映像によって実感することができます。

一方、生成AIの出現で、コーディングやイラストのスキルがなくても、AIを使って簡単に静止画や動画を作れるようになり、誰でもがクリエイティブな世界にアクセス時代が到来しています。「映像がウソをつく」ことを周知でアートの世界に遊ぶのです。現実と虚構の境目はますますぼやけています。

インターネット、スマホ、SNSの時代を生きる我々には、映像のウソを見破る力が必要です。メディア・リテラシー、映像リテラシーは生き残るために大切です。映像の巨大なパワーに飲み込まれないように。映像の力で世の中をより良く変えていけるように。

BS世界のドキュメンタリー

プロパガンダ ウソを売る技術



「プロパガンダの真髄とは、大衆の感情と思考への理解だ」。宣伝戦略を重んじたナチスのヒトラーは言う。古くは洞窟壁画から、中世キリスト教会の「洗脳手法」、チェ・ゲバラ肖像画の著作権フリー戦略まで。人々を巧みに操る力が社会に与えた影響を徹底分析！

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

第4集 ヒトラーの野望



アドルフ・ヒトラー『我が闘争』「どれほど見事なプロパガンダのテクニックをもってしても、ある根本原則を絶えず念頭においておかない限り成功はおぼつかない。すなわち要点を絞り込み、それをひたすら繰り返すのだ」

BS世界のドキュメンタリー

スターウォーズ レーガンのハッタリ



冷戦終結の秘密は元ハリウッド俳優・レーガン大統領の一世一代の大芝居に!? 大ヒット映画「スターウォーズ」になぞらえた巧みな筋書きがアメリカを勝利に導いた。世界を分断した冷戦。謀略に満ちたその舞台裏を知ろう。

BS世界のドキュメンタリー

トランプ対バイデン ～2020年アメリカの選択～ 前編



「何事も勝つためにやれ!」。トランプは厳格な父の教えを守り、強引な手法で不動産業で成り上がる。メディアを操り、ライバルを蹴落とし、大統領に上り詰めたトランプ。

NHK特集 激動の記録

①戦時日本 日本ニュース 昭和15～20年



開戦の大本営発表は、ニュース映像のためにわざわざ再現したもの。日本の敗色が濃くなる中で、戦果を盛って発表する「大本営発表」に、次第に疑いの目を向けていく国民も。

NHKスペシャルドキュメント太平洋戦争

⑤踏みにじられた南の島 ～レイテ・フィリピン～



フィリピンを占領した日本軍は「宣撫隊」を作って、地元住民の「洗脳」に努めた。しかし、うまくいかなかった。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い! 見るだけで“読む”!
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何?
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった?
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何?
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何?
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

②終戦前後 日本ニュース 昭和18～20年



映画館で流れるニュース映像では、負け戦は粉飾され、国民は勇ましく決起を呼びかけられた。でも人々はそんなフェイクニュースからも真実を鋭く感じ取った。特攻機に乗り込む若者の表情に何を感じるだろうか。

BS世界のドキュメンタリー

バタフライ・エフェクト ～歴史的妄想のススメ～ インターネットの起源



インターネットの父と呼ばれるティム・バーナーズ＝リーは、ウェブは地球全体へと広がり多くの革新を生み出した一方で、憎しみを拡散し、違法行為を容易にもしている、という

BS世界のドキュメンタリー

“幸せ”に支配されるSNSの若者たち



「ハッピークラシー」とは幸せと支配を組み合わせた造語で、ソーシャルメディアによって若者たちが幸せであることに捕らわれていると、欧米では社会問題化している。「ハッピークラシー」の実態を知り、解決法を探ってみよう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

06. SNSの功罪 溢れる「情報」失われる何か

SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)は、英語圏ではソーシャル・メディア、もしくは単にソーシャルと呼ばれる媒体は、ビジネスや情報取得、コミュニケーションのありようを一変させました。選挙や災害、戦争に至るまであらゆる局面で大きな影響を与える一方、情報の真偽や発信の思惑も定かではない情報の拡散が、世界を、私たち個人の生活を覆うようになったのです。

わずか2～30年の間に、世界を変えたSNS。その“歴史”とともに、議論されてきた“功罪”も含めて考えるための番組をピックアップしました。

国境を超える電波が、社会を変えた出来事がありました。第二次世界大戦後のヨーロッパは、ソビエトの影響下にあった社会主義国家群と、西ヨーロッパに分断されていました。東西の国境を越えて、電波は飛び交います。東欧諸国は西側のテレビ番組を見て、その豊かな生活にあこがれました。冷戦終結の遠因です。

そしてインターネットとSNSは、映像が社会を変革するスピードを加速させました。2010年、チュニジア。警察の理不尽な取り締まりに抗議するため、露天商の青年が焼身自殺を図ります。民衆の抗議デモが始まり、参加者がデモの様子を撮影し、SNSに次々と投稿。反政府運動が広がり、長期独裁政権下にあった周辺諸国にも飛び火し、「アラブの春」と呼ばれる民主化が起こりました。

2022年9月、イラン。ヘッドスカーフの付け方が正しくないとして「道徳警察」に拘束された22歳の女性がなくなると、抗議デモが始まり、やはりSNSで拡散して大規模な反政府デモとなりました。SNSは社会を変革する力を持ったのです。

恋愛リアリティー・ショウの出演者を自殺に追い込んだ「サイバー・ブリング」(ネットいじめ)。「いいね!」を押していると、その人の好みの投稿が自動的に提示されますが、ユーザーの気に入る情報しか提示されない「フィルター・バブル」で視野狭窄に陥るという欠点もあります。SNSで「盛った」投稿を目にして、他者と比較してウツに陥る。「リア充」だとの虚飾、嫉妬、承認要求の罨、炎上、犯罪、個人情報漏洩、中毒性など、SNSの負の側面について論じればキリがありません。

今日では技術の進歩で、AIに嘘の映像を作らせるのは簡単です。生成AIの発達と普及で、テキストを打ち込むだけでフェイク写真や動画を作成することも可能になりました。世界の多くの国でリーダーを選ぶ選挙が目白押し。2024年、選挙戦ではこうしたAI生成映像が多用されています。

ネット上の映像や情報が真実なのか、発信者は何を意図しているのか。誰もが情報を発信できるのは、すばらしさと危うさをはらんでいます。メディアで発信された情報を批判的に見る力、「メディア・リテラシー」をぜひ身につけていただき、この情報過多な時代を生き延びてください。

BS世界のドキュメンタリー

嘘やヘイトもカネになる ネット自動広告取引の闇



インターネットを見ると表示される広告。でも、なぜこの広告があなたのスマホに出て来るのか、その仕組みを知っていますか？偽情報やヘイトスピーチを発信するサイトに、世界的な有名ブランドの広告が掲載される事態が起きた。ところが広告主も「どんなサイトに広告が出るのか」把握しきれないという。プラットフォームの対策は十分なのか？巨大な規模となったネット広告の“闇”に迫る。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

あなたの顔は大丈夫？ 最先端“顔認証システム”が危うい



監視カメラが犯罪摘発に効果をあげている。しかしその映像で今あなたがどこにいるか特定されるとしたら？ インターネットやSNSの写真から「顔」情報を集め、AIが分析しデータベースを構築、瞬時に「誰か」を特定するシステムも動き出している。本人の同意なく「顔」情報が集められている？ あなたはその危険性に気付いている？ 世界で急速に進む「顔」情報を巡る“怖い”最前線をドキュメント。



欲望の時代の哲学 マルクス・ガブリエル

【5回シリーズ】

SNS社会で増幅する欲望、怨恨、そして分断。コミュニケーション ツールとして期待を集めたデジタル・メディアこそが 社会を破壊し人々の心を蝕んでいると、新進気鋭のドイツの哲学者マルクス・ガブリエルは指摘する。カントやヘーゲルなどドイツ伝統の哲学に新たな生命を吹き込むことで、現代人の心の問題を解き明かす。

欲望の時代の哲学2020 ～マルクス・ガブリエルNY思索ドキュメント～

第1回 欲望の奴隷からの脱出



「欲望」の正体について解き明かします。人は他人から抱かれるイメージに満足できないとガブリエルは語る。SNSこそが社会を破壊している!?

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

“幸せ”に支配されるSNSの若者たち



「ハッピークラシー」とは幸せと支配を組み合わせた造語で、ソーシャルメディアによって若者たちが幸せであることに捕らわれていると、欧米では社会問題化している。「いいね」を増やそうと必死になる。極端なダイエットに走る。自分は醜いと思ひ込む。「ハッピークラシー」の実態を知り、解決法を探してみよう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

07. 気候変動について学ぼう

10代から20代のみなさんの未来について考えた時、避けて通れないのが、地球温暖化の問題です。

最近では「Climate change」気候変動という表現に変わって「Climate crisis」気候危機という言葉もしばしば目にするようになりましたが、2023年7月、国連のアントニオ・グテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が来た」と警告し、「Global boiling」という造語がメディアを賑わすようになっています。

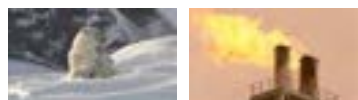
産業革命以後、二酸化炭素の量が急増していることが科学的な分析によって明らかにされています。石油や石炭などの化石燃料を大量に使用するようになったことがその主因です。その結果、世界の平均気温は上がり続けているのです。

世界が目指しているのは、2015年のCOP21（国連気候変動枠組み条約・第21回締約国会議）で採択された「パリ協定」に掲げられた目標です。「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする」。この1.5℃の目標に向けて、2024年のCOP28では、エネルギーに関する合意がなされました。具体的には、化石燃料から「脱却」していき、2030年までに再生可能エネルギー容量を3倍にし、かつ省エネ改善率を2倍にすることです。

しかし、アメリカはトランプ新大統領がパリ協定からの離脱を表明、ウクライナ危機などの影響でエネルギー価格は高止まりのまま、その先行きは決して楽観できません。

そして、毎年のようにヨーロッパやアメリカを襲う熱波や山火事、アジアそして日本を襲う超大型台風は、人々に温暖化の行き着く先の危機感を抱かせるのに十分でしょう。人類が温暖化問題を解決できるかどうかは、2020年代の我々の努力にかかっています。観測史上最も暑い年となった2023年、グテーレス国連事務総長は「燃えるように暑い年を、燃えるような野心の年に変えなければならない」と述べました。

歴史学の分野では、気候変動が経済活動など社会に与えた影響を重視するようになっています。王朝の交代や帝国の衰退、革命など歴史上の重大事件と気候変動との関連についての研究が進んでいます。21世紀の今、人類文明がいかにかこの惑星を危機に陥らせているのか、温暖化のため北極圏に起きた変化とは、温暖化がもたらす巨大災害とは、そしてビジネス界はそれを防ぐためにどんな取り組みをしているのか…リストに挙げた番組を視聴して、みなさんの未来に大きく影響する温暖化問題について学んでみましょう。



NHKスペシャル 北極大変動

【2回シリーズ】

北極で一体何が起きているのか？ 地球温暖化による 氷の消失、絶滅に瀕するホッキョクグマ。北極海を覆う氷の減少が、エネルギーを求める人間の欲望に火をつけた。石油や天然ガスなど、海底に眠る膨大な地下 資源を巡る各国の激しい開発競争は、新たな二酸化炭素の排出を招き、地球温暖化をさらに加速させる…。人類はこの「負の連鎖」を食い止め、化石燃料への依存から脱することができるのか？

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ



NHKスペシャル 巨大災害 MEGA DISASTER 地球大変動の衝撃

【5回シリーズ】

地球温暖化は大気と海の大循環を変動させ、大洪水・大干ばつ・大寒波などの異常気象を生み出し（第1集）、海水温上昇により、スーパー台風を生み出し（第2集）、日本にも短期間に勢いを増す豪雨をもたらす、河川の氾濫や大規模な土砂災害につながる。



シリーズ“脱炭素社会”

【3回シリーズ】

二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする脱炭素社会へ大きく舵を切った世界。急速に変化する世界のビジネス界を追うシリーズ。第1回は、化石燃料から投資を撤退する動きを加速させるウォール街や、再生可能エネルギーの価格破壊など、激変する金融の最前線を描く。第2回ではドイツの大手電力会社の取り組みなどを、第3回では中国・日本・アメリカの企業の取り組みを紹介する。

BS世界のドキュメンタリー

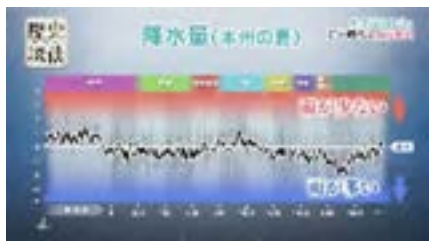
天空の脱炭素 ～航空機業界の未来～



温暖化を防ぐ「脱炭素」が叫ばれる中、二酸化炭素排出の2～3%を占める飛行機の「電化」に注目が集まり欧州では開発競争が加速している。ドイツやノルウェーでの先進的な試み取材して、航空機業界の将来を探る調査報道ドキュメント。

歴史探偵

大江戸SDGs



世界で注目されているSDGsの参考になると注目されているのが江戸の暮らし。徹底した再利用が行われ、ごみがほとんど出なかった。最新研究から、江戸時代が日本史上、一番雨が多く寒かった時期だったことがわかってきた。人々はどうやってこの気候変動に対応してきたのか？歴史から地球の未来を考える！

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

08. ヒトって何？

「Humanity」という英単語は「人類」「人間性」「人情」という意味ですが、複数形にすると「人文科学」と訳されます。西洋文明の源であるギリシャ・ローマ時代から、文学・歴史・哲学を含み、自然科学に対置される学問分野で、簡単にいうと人間の本性や行為を研究することです。

15世紀以降、西洋の強国がアジアやアフリカ、アメリカに進出し、自分たちと異なる文明と出会う中で「人類学」という学問が生まれました。まず航海者が、続いて伝道者、人類学者、最後に軍隊を送り込んで植民地化するなどと言われました。人類学はある意味、「罪深い」学問ではありません。当初、「未開人」という言葉が使われ、彼らを「文明化」するのが、文明人の使命だとされた時代を経て、20世紀半ばすぎには「文化相対主義」、つまり文化に優劣はなく、その土地の環境によって生き残るために最適な生産手段、行動様式、習慣風俗が選び取られているに過ぎないという考え方が生まれました。

「人類学」にはいろいろな分野がありますが、大まかにいうと「自然人類学」と「文化人類学」に二分されます。前者が骨や外見や身体作りなどから人類の進化や人種を研究し、後者は裸のヒトが、どんな「文化」という衣を纏って多様な環境の中で生きているのかを研究します。みなさんに配信している二つの番組シリーズでは、双方の人類学の分野を跨いで、さらに周辺の学問分野も取り込んで、最新の「humanity」（人間らしさ）とは何かに迫ります。

2022年のノーベル生理学・医学賞は、進化人類学者のスバンテ・ペーボ氏に授与されました。4万年前のネアンデルタール人の骨に残っていた遺伝情報を調べ、現生人類が彼らの遺伝子を受け継いでいることを明らかにしました。つまり、我々ホモ・サピエンスと絶滅したネアンデルタール人は交配していたのです。

このように、ヒトの進化についての学説は、新たな化石の発見や遺伝情報の解析などにより、近年、長足の進歩を遂げています。みなさんの親の世代は、高校で猿人→原人→旧人→新人と進化し、アフリカから世界各地に広がったと習いました。ことはそんなに単純ではなかったのです。進化の過程で、類人猿と現生人類ホモ・サピエンスの間に位置する種の多くが、アフリカを出ては絶滅を繰り返したのです。

私たちの祖先は、アフリカに住むか弱い「サル」でした。その「サル」が現生人類へと進化する過程で、何度も絶滅の危機に瀕します。生き延びたのは偶然と幸運でした。生物として強い者が生き残ったわけでもありませんでした。なぜサバイバルできたかを学ぶことは、とりも直さず、ヒトとは何かを学ぶことです。

フロンティア

日本人とは何者なのか



私たち日本人のルーツは？そのカギを握るのは発掘された古代人の骨。そこから抽出されたDNAを解析することで大量の情報を読み出すことが可能になり、新発見が相次いでいる。アフリカで誕生した人類が日本に到達し、日本列島に独自の文化を生み出してゆくまで、数万年の長い道程を、最先端の科学技術が解き明かす。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ



NHKスペシャル ヒューマン なぜ人間になれたのか

第1集 旅はアフリカから 始まった



「仲間」であることを示す装飾具の相次ぐ発見から分かってきたことは、「絆」を確認しあう大切さ。そして、大噴火という逆境が遠く離れた集団との交易を促したことも。「ともに生きる」という人間集団の基本が確立した過程をたどる。

NHKスペシャル ヒューマン なぜ人間になれたのか

第2集 グレートジャーニー の果てに



6万年前、アフリカから世界に広がり始めた人類の旅は苦難に満ちていた。我々の祖先、ホモ・サピエンスはネアンデルタール人との生存競争を、飛び道具などを使って勝ち抜く。しかしそれは果てしない暴力の連鎖をも生み出した。規律心の進化と攻撃性の制御…現代にまで続く宿命に迫る。



NHKスペシャル 人類誕生

第1集 ①こうしてヒトが生 まれた



か弱いアフリカのサルがなぜヒトへと進化できたのだろうか？最新科学が解き明かす、驚きと謎に満ちた人類の進化を、実写と見まごう超高精細CGでドラマ化。人類の偉大な旅＝グレート・ジャーニーに同行し、進化の重大な場面を目撃する、驚きの試聴体験！

NHKスペシャル ヒューマン なぜ人間になれたのか

【4回シリーズ】

人間とは何か。「人間らしさ」の起源を20万年間の人類史に探る。「ともに生きる」人間集団、「仲間を大切に」思うがゆえの攻撃性の抑制、農耕の起源に潜む「平和」志向、「都市」を舞台にした人間の心の変遷。私たちの目指すべき未来を探る。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

第2集 最強ライバルとの出会い そして別れ



私たちの祖先ホモ・サピエンスの最強のライバル、ネアンデルタール人。近年、両者が混血し、後者の遺伝子が進化に大きく貢献したことが判明。屈強な体を持つネアンデルタール人は滅び、きゃしゃなサピエンスが生き残った。仲間同士での「協力」と「想像力」が生存のポイント。人類史上の大逆転劇、その謎に迫る！

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

09. 「進化」について考えてみよう

「進化」について語るとき、難しいのは、進化＝進歩と考えがちなことです。

そこには進んでいるものほど優れているという価値観があります。そして、生物の進化を、そのまま人間社会の進化に当てはめてしまうことも危険をはらんでいます。そこからは「人種差別」「強者の理論」へのすり替えさえ行われてしまいます。その例がナチスドイツの「優生思想」です。

博物学者チャールズ・ダーウィンは、自然をじっくり観察し、「自然淘汰によって生物は進化する」という結論に達します。この進化には優劣の差もなく目的もなく、ただ環境にもっとも適合したものが生き残るのです。たまたま突然変異をした種が、大きく変わった環境の中で生き延びてきたのです。そうした奇跡の積み重ねの上に、わたしたち現生人類がいます。

ダーウィンの「進化論」はキリスト教がまだ大きな力を持っていたイギリスで、大論争を引き起こしました。神がすべての生き物を創造したと考えられていたからです。1996年になってローマ教皇は「進化は仮説以上のものだ」と事実上、容認しましたが、アメリカの中南部ではいまだに進化論を認めない人々もいます。

2022年のノーベル生理学・医学賞はドイツのマックス・プランク進化人類学研究所のspan>テ・ペーボ氏に与えられました。約4万年前に絶滅したネアンデルタール人の遺伝情報を解析。現生人類に彼らの遺伝子が受け継がれていることを突き止めたのです。これは両者が共存した時代に混血が起きたことを示しています。DND解析や化石の発見などによって、類人猿から現生人類までの進化の過程についての知見は日進月歩です。

また、人類の進化の視点から病理を見ると、我々の多くが悩まされている病の数々は、進化の中で抱え込んできたものであることも分かります。最新の研究では人類の遺伝子のなかには、ウイルスに由来するものが相当程度あることが分かってきました。ウイルスが宿主だけでなくその子孫にも影響を与えるのです。

そして私たち日本人のルーツを探る研究も進んでいます。発掘された古代人の骨から抽出されたDNAを解析することで大量の情報を読み出すことが可能になり、新発見が相次いでいるのです。アフリカで誕生した人類が日本に到達し、日本列島に独自の文化を生み出してゆくまで、最先端の科学技術が解き明かす数万年の道程も明らかになってきました。

進化を考えることは病の起源や予防法・治療法を考えるヒントを与えてくれます。そしてヒトの進化を考えることは、集団生活、言語、お金、農耕など、人間社会の基盤をなすシステムがどのように生まれたのかを考えさせてくれます。「進化」をキーワードに生物学や病理学、人類学の深みを探ってみましょう。

フロンティア

日本人とは何者なのか



私たち日本人のルーツは？ そのカギを握るのは発掘された古代人の骨。そこから抽出されたDNAを解析することで大量の情報を読み出すことが可能になり、新発見が相次いでいる。アフリカで誕生した人類が日本に到達し、日本列島に独自の文化を生み出してゆくまで、数万年の長い道程を、最先端の科学技術が解き明かす。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ



100分de名著 ダーウィン『種の起源』

【4回シリーズ】

「自然淘汰により生物は進化する」という画期的な理論を、粘り強い観察と精緻な論理の積み重ねで築き上げた「種の起源」。既存の生命観を一変させたダーウィンの生命観では、全ての生物は一つの巨大な連鎖でつながっています。人間には他の生物を操る権利ではなく、互いに尊重し共存していかなければならない、というメッセージがみえてきます。



NHKスペシャル 恐竜超世界

【2回シリーズ】

最近の恐竜化石の発見は、これまでの常識を次々と覆している。どうして1億5千万年も繁栄できたのか。どのように暮らし、戦い、子孫を残し、そして死んでいったのか、その謎の全貌が見えてきた。超リアルなCGを駆使して、恐竜を通じて、進化論の具体例をビジュアルに学ぶ。

BS世界のドキュメンタリー

哺乳類の大躍進！ 恐竜絶滅後の世界



およそ6600万年前、隕石衝突による恐竜絶滅の後、哺乳類はどう生き延び、進化したのか？ アメリカの化石発掘の最前線にカメラが潜入。前例のない驚くべき化石の発見が！ 大惨事を大きなチャンスに変えた私たち人類の祖先、その歴史の転換点に迫る。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ



NHKスペシャル ヒューマン なぜ人間になれたのか

【4回シリーズ】

人間とは何か。「人間らしさ」の起源を20万年間の人類史に探る。「ともに生きる」人間集団、「仲間を大切に」思うがゆえの攻撃性の抑制、農耕の起源に潜む「平和」志向、「都市」を舞台にした人間の心の遷。私たちの目指すべき未来を探る。



NHKスペシャル 人類誕生

【3回シリーズ】

アフリカのか弱い生き物に過ぎなかったサルが、700万年でなぜヒトに進化できたのか。人類の進化の過程は常に絶滅と隣り合わせだった。次々と襲いかかる 危機をいかにして乗り越えたのか？ヒトに至るまでの幸運と偶然に満ちたドラマを描く。



NHKスペシャル 病の起源

【4回シリーズ】

人類は誕生して600万年の間、敵や過酷な環境と闘いながら生き延びてきた。しかし、優れた知能を得た人類も打ち勝てなかったのが病だ。進化の過程で病の種を体に抱え込んでしまったからである。私たちはなぜ病気になるのか。病の起源を求めて時を超え、治療や予防の手がかりを探る。苦しむ患者さんが多い病を取り上げ、病と人類の進化の関係を解き明かしていく。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

10. 人体の不思議を学ぼう

テレビを字解きすれば「遠くteleを見ることvision」です。

テレビ技術の革新は水中や宇宙、南極、深海、高山を映し出す方向へと、しかもより鮮やかに描き出す方向に進化してきました。実用的な胃カメラが日本人技術者によって発明された時、NHKはいち早く胃の手術を中継しました。人体もテレビカメラが挑むべき「秘境」であったわけです。

1989年に放送を始めた「人体」シリーズは、顕微鏡撮影を含む特殊撮影の実写と、最新研究を反映したCGによって、体の内部を可視化し、大きな評判を得ました。医学・生理学の進歩、撮影技術の更なる進化、CGの高精細化を反映しつつ、今日に至るまで「人体」シリーズは作成されています。

進化の過程で病の種を抱え込んだ人類、というテーマで「病の起源」シリーズは制作されました。進化という視点を取り入れることで予防や治療のヒントも得られます。さらに最新の研究では人類の遺伝子中には、ウイルスに由来するものが相当程度あることが分かってきました。感染したウイルスが宿主だけでなくその子孫にも影響を与えるのです。

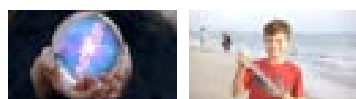
そして2025年には、鍼(はり)やお灸(きゅう)に代表される東洋医学について、免疫機能など、人間の身体のマカニズムとの関係から考える番組をラインナップしました。

医学や看護を志す学生さんも、そうでない人も、最新の知見を知ること、人間の身体の中の絶妙なマカニズムに驚いてください。



NHKスペシャル 人体 ミクロの大冒険 【3回シリーズ】

1989年放送開始の「人体」シリーズは、特殊撮影や高精細CGで、知られざる人体の秘密に迫ってきた。臓器間のメッセージのやりとり注目した「神秘の巨大ネットワーク」シリーズを公開中。今回は「細胞」「遺伝子」に着目したシリーズを予定。胎内で体質を決めていく細胞の活動、ホルモン、老化とその克服…3回シリーズで命を育む細胞のパワーに迫る。



シリーズ 人体II 遺伝子特別編 【2回シリーズ】

役に立たないゴミと思われていたDNAに、病から守ったり、個性や体質を決める働きがあることが分かってきた。さらに「スイッチ」の切り替えによって遺伝子の働きが大きく変わり、人生そのもののまでが変わることも。遺伝子研究の最前線を紹介。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ



シリーズ人体 特別版 ～神秘の巨大ネットワーク～ 【7回シリーズ】

これまでの「人体観」を覆すパラダイムシフトが起こりつつある。「体中の臓器が互いに情報をやりとりすることで私たちの体は成り立っている」という驚きの事実。それを知ることががんや認知症やメタボなど困難な病気を克服する新戦略が見え始めている。神秘的な体の秘密を解き明かしていく知的エンターテインメント。ALL VTR版で提供する。



NHKスペシャル 病の起源

【4回シリーズ】

人類は誕生して600万年の間、敵や過酷な環境と闘いながら生き延びてきた。しかし、優れた知能を得た人類も打ち勝てなかったのが病だ。進化の過程で病の種を体に抱え込んでしまったからである。私たちはなぜ病気になるのか。病の起源を求めて時を超え、治療や予防の手がかりを探る。苦しむ患者さんが多い病を取り上げ、病と人類の進化の関係を解き明かしていく。

フロンティア

東洋医学とは何か



痛みや不調を改善するとされる鍼(はり)やお灸(きゅう)の「ツボ」。最近、全身の免疫機能に及ぼす驚きのメカニズムが明らかになってきた。アフリカで広がる結核患者の免疫機能アップのために「足三里」のツボを刺激するケアなど、世界的にも注目が集まっている。漢方薬の分野でも、腸内細菌の働きを介して腸の免疫機能を高めるメカニズムが明らかに。東洋医学と近代医学を融合させ未来の医療を模索する取り組みも始まっている。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

11

11. 農業・お金の発明でヒトは変わった？

ヒトと類人猿などの動物はどこが違う？

- ヒトは二足歩行できる：チンパンジーもかなり長い間、二本足で立って歩けます。
- ヒトは道具を使う：杖を使ってシロアリの巣を壊したり、水の深さを測るゴリラが観察されています。アリの巣に植物の茎を突っ込んで蟻を採るチンパンジーがいます。
- ヒトは言葉を使う：ボノボのカンジ君は1000もの英単語を覚えて有名になりました。

植物を植え育てるサルは聞いたことがありません。ヒトから貴重品を盗み、餌を要求する、いわば物々交換をするサルはいますが、貨幣を使うサルは聞いたことがありません。というわけで、「人間らしさ」を「農業」と「お金」から考察したいと思います。

人類が農業を「発明」したおかげで、文明が生まれ、都市が生まれたと、みなさんは習ったと思います。大規模な灌漑が必要とされ、集団の規模が拡大しました。社会は階層化され、雨の降り方や季節の移ろいを観察し予想することが求められたため、王や神官の地位が高まりました。

しかし、最近、「農業革命」のマイナス面にも目が向けられるようになりました。穀物などの単一作物の栽培で、狩猟採集時代より食料の種類が減少した。糖分の摂り過ぎで虫歯が増えた。狩猟採集民は一日3～4時間働けば良かったが、農民は常に田畑に手を入れないといけないため、自由な時間が減ったのも事実です。

狩猟採集民はグループ内で対立が生じると、争いの地を離ればことは解決しました。一方、農耕社会では土地の境界や水の利用をめぐる争いが起きやすく、しかし、耕作地から離れられない。集団が集落から国へと大きくなるに従い、紛争も大規模になりました。動物を家畜化したことで、新たな感染症が生まれました。なにより農業は自然環境への負荷が大きい。デメリットは結構あります。

ヒトが知り合いになれる数は150人前後だと言われています。都市や国家はそれ以上の規模です。イスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリは大きな共同体を作るには「虚構」が必要だと言います。その代表格が宗教（イデオロギー）であり貨幣です。早くに農業が始まった西アジアでは最初の都市が生まれましたが、分業システムと貨幣制度がその基礎にありました。

「ヒューマン なぜ人間になれたのか」第3回「大地に種をまいた時」では、「平和を願う心が農耕を発展させた」という最新の仮説を紹介しています。第4回「そしてお金が生まれた」では、貨幣経済が格差を産み、際限のない欲望が資源の枯渇と文明の衰退につながったケースを紹介しています。文明の基盤とも言える「農業」「貨幣」、その起源とそれらが産んだ結果のメリットとデメリットについて考えることは、我々が暮らす社会の根っこを見つめることになります。



NHKスペシャル ヒューマン なぜ人間になれたのか

【4回シリーズ】

人間とは何か。「人間らしさ」の起源を20万年間の人類史に探る。「ともに生きる」人間集団、「仲間を大切に」思うがゆえの攻撃性の抑制、農耕の起源に潜む「平和」志向、「都市」を舞台にした人間の心の変遷。私たちの目指すべき未来を探る。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

第3集 大地に種をまいたとき



人類社会を飛躍的に発展させた農業。「隣人」という存在が生まれ、集団間の凄惨な戦いも生まれた。「平和を願う心が農耕を発展させた」とする最新の仮説に基づき、温暖化で大洪水が頻発する激動の時代の中で進んだ農耕革命。そのドラマがもたらした、未来を考える心の進化に迫る。

第4集 そしてお金が生まれた



6000年前、西アジアで最初の都市が生まれた。その原動力は分業と貨幣。貨幣経済で生産は増えたが、格差も広がった。欲望の果てに資源を使い果たし、衰退したギリシャ文明。お金によって人類は何を手に入れ、何を失ったのか？ 私たちの目指すべき未来を探ろう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

12. 伝染病と人類について考えよう

「伝染病と人類」、コロナの時期にすべての人が直面した重い課題でした。顕微鏡が発明され、はやりやまいの正体がごくごく小さな生き物や、100%生き物とも言えないウイルスだと分かる前から、人類は伝染病と格闘してきました。みなさんの中には、せっかく大学に入ったのに、引きこもりを強いられ、授業はオンラインで、友人もなかなかできず、最悪の時代だったと思う方もいらっしゃるでしょう。

しかし、最悪の病禍は、1346年から数年間にわたったパンデミックかもしれません。ペスト菌によるこの感染症は、皮膚が黒くなる症状から「黒死病」と呼ばれ、中東からヨーロッパの全人口の3分の1が亡くなりました。この感染爆発は当時の社会を大きく変えることになります。

人口減少のため労働力不足となり、賃金が上がり、貨幣経済が行き渡りました。労働者階級の価値が高まり、庶民が自由を享受するようになりました。土地が手つかずになり、森林が再生したという説もあります。人類最大の災厄は、中世社会を容容させ、ルネサンスや大航海時代の近世への扉を開いたともいえるかもしれません。

コロナ禍は社会を大きく変えました。ITを駆使した在宅勤務、オンライン会議、キャッシュレス化、授業のオンライン化などなど。この先数年かかると予測されていた変化が、半年で現実となりました。米マイクロソフトのサティア・ナデラCEOは2020年、「2年分のデジタル変革が2カ月で起きた」と述べ、コロナがDX(デジタル・トランスフォーメーション)を加速させ、人々の思考と行動を変えたと言います。『サピエンス全史』などの著作で有名なイスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリ氏は「非常事態は、歴史のプロセスを早送りする」と看破しました。

マイクロソフトの創業者ビル・ゲイツは、2015年の時点で「次の数十年で1千万人以上が亡くなる災厄は、戦争ではなく感染症だ」と予測しました。ゲイツだけでなく多くの専門家が、人々が国境を越えて頻繁に行き来する中、感染爆発に懸念を抱いていました。コロナ禍が原因で東京五輪は1年延期されましたが、リオデジャネイロ五輪ではジカウイルスが、ピョンチャン冬季五輪ではノロウイルスが脅威となっていました。コロナ危機は去りましたが、新たなパンデミックが起きる危険は小さくないです。

コロナによる医療崩壊の現場で医師たちがどう振る舞ったのか、海外ドキュメンタリーを視聴してみましょう。ノーベル賞作家カミュが、ペストと格闘する人々を通じて、極限状態での「誠実さ」や「職責」をどう描いたのかに触れてみましょう。みなさん自身の体験と相まって、「人間性」とは何かを深く学ぶことができるでしょう。

アメリカ大陸で繁栄した文明を滅ぼしたのは、征服者スペイン人が持ち込んだ病原菌でした。文明の興亡に関わる感染症。社会構造を大きく変えるパンデミック。ウィズ・コロナであれ、アフター・コロナであれ、みなさんは人類史上の一大事を目撃者です。

BS世界のドキュメンタリー

コロナ医療崩壊の現場で ～医師フランチェスカの闘い～



イタリアを襲ったコロナ感染爆発の中心地・クレモナの救急病院で働く女性医師に密着。どの命から救うのか選択を迫られる日々。同僚も次々に感染する絶望的な状況の中、死の淵にいた18歳の少年が奇跡的に回復！ 少しずつ希望が見え始めるが…。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？

12 伝染病と人類について考えよう

- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ



100分de名著

カミュ『ペスト』

【4回シリーズ】

1947年に出版された小説が、コロナで注目を集めて売れている。ノーベル賞作家カミュが、感染症という見えない敵と戦う市民の姿を描いた『ペスト』だ。後手に回る行政、人々の相互不信、愛する人との過酷な別れ。極限状況での「誠実さ」「自分の職務を果たすこと」とは。



100分de名著

カミュ『ペスト』 (4)われ反抗す ゆえにわれら在り



ペストが沈静化する中、仲間と妻を失った医師は、後世のために全ての記録を書き記そうと決意する。私たちを打ちのめす「不条理」とどう向き合っていけば良いのか。コロナの中でなすべきことは何なのか、誠実に自分の義務を果たすことについて考えてみよう。

BS世界のドキュメンタリー

ロックダウン下の野生動物たち



コロナ禍のロックダウンは人間社会だけでなく、自然界に驚くべき変化をもたらした。観光客の減少でウミガメの産卵率は上昇。交通量の減少は、野生動物の交通事故を減らしただけでなく、鳴き方を変えた鳥もいる。動物たちの柔軟な適応力や人間が引き起こしてきた自然界への影響について考えさせられる科学ドキュメンタリー。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

13. 数理の好奇心を極める

古今東西を問わず、ヒトは自然現象を見ながら、なぜ、そのことが起きるのかを考えてきました。

太陽はなぜ東から登り、西に沈むのか。世界はどうやって始まったのか。こうした謎を説明するために「神話」や「創造主」が必要とされました。世界の始まりを物語るストーリーや、超自然的な絶対者を仮定して、自分たちをとり囲む世界の事象の説明を求め続けてきました。

西洋思想の源流となったギリシャ哲学。タレスは「万物の根源は水である」と説き、ピタゴラスは「数である」とし、「万物は火である」とみなしたヘラクレイトスは「万物は流転する」とし、デモクリトスは「空虚の中で原子が運動して世界が成り立っている」と看破しました。ギリシャ思想の流れをくむ西洋では統一原理を求めるマインドがあります。それはキリスト教やイスラム教など一神教によって更に裏打ちされてきました。

一方、東洋思想は一木一草に神が宿るとするアニミズムを背後に抱えています。世界3大発明とされる火薬、活版印刷術、羅針盤はヨーロッパで発明されたとされますが、その原型は古代中国で生まれています。東洋は実用的実利的な技術開発には長けていても、統一原理を突き詰めることは不得手なのかもしれません。

18世紀、西洋哲学の巨人カントは、「科学」について徹底的に考え抜き、近代哲学の築きました。20世紀、アインシュタインは世界の全ての物理事象を説明するシンプルな方程式にたどり着きました。

現代の数学や物理学は、西洋の知の伝統に根ざしています。この世のすべての事象には、規則性があり、簡単な数式で説明できる、そう信じてきた学者たちの格闘を描いた番組を選びました。

「リーマン予想」は、「一見無秩序な数列にしか見えない“素数”がどのような規則で現れるか」という問いに、「ポアンカレ予想」は「宇宙はどんな形をしているのか」と言う問いに答えるための重要な鍵。古来、「あらゆる自然現象は、最終的には一つの数式で説明できるはずだ」と信じてきた人々。難解な謎に、CGや合成映像を駆使し、また、それらに取り組んだ学者たちの人間臭い格闘のドラマを通じて迫ります。

2025年、「暗号資産」という新しい“貨幣”に関する番組をラインアップに加えました。ビットコインに代表される暗号資産がどうやって生まれたのか、そのミステリーに迫る番組です。インターネット時代の数学に裏打ちされた世界的な“発明”、これもまた“数理”に迫る人間たちのドラマがあったと言えるでしょう。



100分de名著

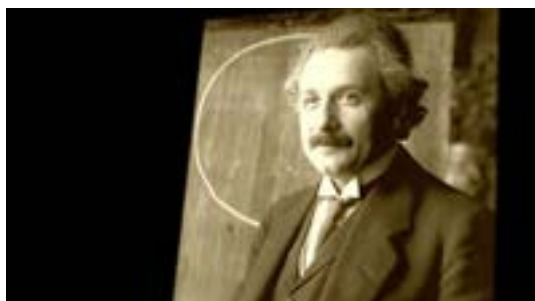
カント『純粋理性批判』

【4回シリーズ】

近代哲学の礎を築いた18世紀の哲学者カント。『純粋理性批判』は哲学史上、最も難解な名著と言われます。でも大丈夫。100分でわかりやすく解説し、ITやAIで科学万能主義が幅をきかす現代に通じるメッセージを掘り起こします。

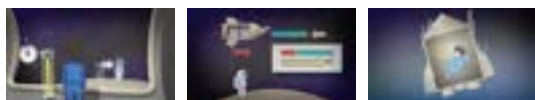
INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ



100分de名著 アインシュタイン『相対性理論』 【4回シリーズ】

誰もが知ってて誰も理解できない名著、それが『相対性理論』。でも、もう大丈夫。数学や科学の知識がなくても、アニメーションやCGで、物理学革命のエッセンスが分かります！「想像力は知識より重要だ」という天才博士の思考実験をたどろう。



NHKスペシャル

魔性の難問 ～リーマン予想・天才たちの150年の闘い～



2、3、5、7…誰もが小学校で習う「素数」。この不規則な数字の羅列にどんな意味があると思いますか？ これこそ数学史上最大の難問「リーマン予想」。何か規則性があるはず！ 暗号が隠されているかも。その謎の魔力にとりつかれた天才数学者たちの、奇想天外なドラマとは？ CGを駆使して分かりやすく紹介する。

NHKスペシャル

100年の難問はなぜ解けたのか 天才数学者 失踪の謎



丸？ 四角？ 宇宙の形を考えたことはありますか。この謎に迫る世紀の難問「ポアンカレ予想」を、ロシアの天才数学者が見事解決！ しかし彼は、数学のノーベル賞と言われる賞を拒否して失踪した。一体なぜ？ 宇宙と数学が交錯する不思議な世界をのぞいてみよう。

NHKスペシャル

神の数式 ①この世は何からできているのか ～天才たちの100年の苦闘～



森羅万象を一つの数式で説明しようとした天才たちの狂気さえはらんだ思索のドラマを、大胆にビジュアル化した野心作。第1回のテーマは「なぜモノに重さがあるのか？」。机に立てた鉛筆は倒れる…この当たり前の現象をヒントに、「神の数式」が解き明かされる!?

NHKスペシャル

神の数式 ②宇宙はなぜ生まれたか ～最後の難問に挑む天才たち～



第2回のテーマは宇宙の起源。「物質の根源は点ではなく“ひも”」「この世は“10次元”」ってどういうこと？ 車椅子の天才・ホーキング博士たちが、数式で表せないブラックホールの奥底を探究してきた。その謎が解ければ宇宙がどのように始まったかという最大の難問に答えられる。人類の知のフロンティアを映像化！

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

謎の天才「サトシ・ナカモト」完全版(前編)



2008年10月、ネット上に「サトシ・ナカモト」と名乗る人物がある論文を投稿した。ブロックチェーン(事実上、改ざん不可能な分散記録システム)を紹介したこの論文から、暗号資産(仮想通貨)ビットコインが誕生する。しかし「サトシ・ナカモト」とは何者か、その正体は今もわからない。“今世紀最大級”の技術革新を生んだ謎の天才、そのミステリーに迫る。

謎の天才「サトシ・ナカモト」完全版(後編)



ビットコインに代表される暗号資産。国家も銀行も関わらず、コインも紙幣もない、世界のデジタル空間に存在する仮想通貨だ。“ノーベル賞級”とも言われるこの画期的な技術はなぜ生まれたのか？そして暗号資産の誕生が世界に与えた影響とは？

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

14. 「お金」って何？ 「資本主義」ってどうよ

「お金」の姿が急激に変わりつつあります。

コロナ禍の前まで、お財布からコインや紙幣を取り出すのは当たり前でしたが、この数年の間にキャッシュレス化が急速に進みました。

クレジットカードはもちろん、スマホのアプリでの決済、オンライン・ショッピングでは、店に足を運ぶことなく、クリックだけで欲しいものがすぐに手に入ります。さらには暗号化された仮想通貨（クリプト・カレンシー）も、「買ってみよう」と思った人もいないのではないでしょうか。私たちは「お金」の概念が大きく変わる時代に生きています。そして「豊かさ」の概念もまた揺らいでいます。

「幸福の経済学」のパイオニアである経済学者リチャード・イースタリンが提唱した「イースタリンのパラドクス」という概念があります。国の満足度、人々が幸福だと感じる度合いは、その国が達成した豊かさのレベルに関係ない、というものです。日本では経済成長期の40年に、実質GDPは6倍に増えたものの、生活満足度はほとんど変わらなかったとする研究があります。

なぜでしょうか？ 経済学者ジェームズ・デューゼンベリーは「近所の人に負けまいと見栄を張る」消費者の行動基準のためだと説明します。欲望は相対的なのです。みんなが豊かになるのではなく、自分が周りより豊かになって初めて充足を感じる、ヒトは「罪深い」生き物です。

空腹を満たしたい「欲望」が満たされると、おいしいものをたらふく食べたいという新たな「欲望」が生まれます。雨風をしのぎたいから、立派な家に住みたいへ。寒さをふせぐものを身にまとうから、他人よりおしゃれに着飾りたいへ。欲望が欲望を生み、競争が生じ、社会が発展してきた資本主義。6回シリーズの「欲望の資本主義」では、「欲望」をキーワードに、富を生むルールの変更を概観しています。

一方、ヒトには限りない欲望を良くないとみなす心の傾向もあります。多くの宗教は「足るを知る」べきだと説きます。時間が富を生む「利子」を禁じた宗教もあります。冷戦終結によって「社会主義」は「失敗した壮大な社会実験」だとされましたが、そもそもは欲望が生んだ格差という資本主義のマイナス面を是正しようと、理想主義者たちが唱えたオルタナティブ（もう一つの選択肢）でした。数年ほど前までは時代遅れとされたマルクスの『資本論』の見直しも始まっています。現代社会の課題を理解し、解決策を探る試みです。

お金の誕生した時代から、暗号資産の誕生まで。あくなき富の追求と、“資本主義”を生んだ人間の欲望とは何だったのか。「お金」と「資本主義」をキーワードに、以下の番組をみて考えてみませんか。

市民X

市民X 謎の天才「サトシ・ナカモト」完全版（前編）



2008年10月、ネット上に「サトシ・ナカモト」と名乗る人物がある論文を投稿した。ブロックチェーン（事実上、改ざん不可能な分散記録システム）を紹介したこの論文から、暗号資産（仮想通貨）ビットコインが誕生する。しかし「サトシ・ナカモト」とは何者か、その正体は今もわからない。“今世紀最大級”の技術革新を生んだ謎の天才、そのミステリーに迫る。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

謎の天才「サトシ・ナカモト」完全版(後編)



ビットコインに代表される暗号資産。国家も銀行も関わらず、コインも紙幣もない、世界のデジタル空間に存在する仮想通貨だ。“ノーベル賞級”とも言われるこの画期的な技術はなぜ生まれたのか？そして暗号資産の誕生が世界に与えた影響とは？

シリーズ欲望の経済史
ルールが変わる時

【6回シリーズ】

今、経済に注がれる眼差しが熱い。英EU離脱、トランプ現象、揺れる世界経済…。資本主義の歴史とは、際限のない欲望のドラマだ。千年近くにわたる壮大な経済史を、欲望という視点から捉える、異色のドキュメント。なぜ 世界同時不況は起きるのか。なぜ バブルは繰り返すのか。どこに「ルールが変わる」ポイントがあったのか。「資本主義の終焉」が叫ばれる今だからこそ考える、知の冒険シリーズ。

欲望の経済史 ルールが変わる時

① 時が富を生む魔術 ～利子の誕生～



やめられない、止まらない。欲望が欲望を生む資本主義。そこには常に時代を動かす欲望の形があった。富を生むルールの変更を探る異色シリーズ前半の6回は「世界経済編」。

多くの宗教が禁じてきた「利子」。しかし、それなしには金融商品はあり得ず、経済成長も遂げられない。時間をお金と交換する「蓄行」が、資本主義の原点だった？

欲望の経済史 ルールが変わる時

⑥ 欲望が欲望を生む ～金融工学の果てに～



経済の混迷を説明できない経済学。我々は何を学んだのか。資本主義はどこに向かうのか。最終回は第1回から第5回の数百年にわたる欲望のドラマを振り返りながら、5人の識者に資本主義の本質を問う。「芸術に投資すべき」「成長とエコロジーを結びつける研究を」「ルーティーンワークは通用しなくなる」。世界の知性たちが描くポスト資本主義の世界のルールとは？

NHKスペシャル ヒューマン なぜ人間になれたのか

第4集 そしてお金が生まれた



6000年前、西アジアで最初の都市が生まれた。その原動力は分業と貨幣。貨幣経済で生産は増えたが、格差も広がった。欲望の果てに資源を使い果たし、衰退したギリシャ文明。お金によって人類は何を手に入れ、何を失ったのか？ 私たちの目指すべき未来を探ろう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

15. 貧富の差について考えてみよう

コロナ・パンデミックが人類に与えた災厄は甚大でしたが、貧富の差を拡大させたこともその一つでしょう。

世界の様々な調査報告が、コロナのパンデミックにより、貧富の差が拡大したとしています。コロナ後の経済の回復は「V」字型ではなく、「K」字型だとされます。つまり、伸びる会社・産業と落ち込む産業にはっきり分かれるのです。アフター・コロナの時代、観光や外食などの産業では回復が見られました。しかし、ILO・国際労働機関によると、男女格差も拡大。最も大きな影響を受けているのは非正規雇用の女性だとしています。

格差・貧困問題に取り組む国際的なNGO、オックスファムは、コロナ禍で、世界の10人の富豪の資産が2倍以上に増え、1億6,000万人が新たに貧困に陥っているとしました。『21世紀の資本』がベストセラーとなったフランスの経済学者トマ・ピケティをはじめとする経済学者たちは、感染拡大が格差を悪化させ、世界の上位10%の金持ちが、76%の富を占めているとする報告「世界不平等リポート2022」をまとめました。

もう少し長いスパンで外観してみると、二度の世界大戦と各国の税制改革を経て、世界全体で見ると貧富の差は縮小していきました。しかし1980年代から再拡大を始めます。

日本では経済成長により、その成果が中間層に共有され、比較的格差の少ない、いわゆる「一億総中流」社会が形成されました。しかし、20世紀末頃より中間層の可処分所得は減り始め、現在「相対的貧困率」は約15.4%、つまり6.5人に1人、1900万人以上が貧困ライン以下で暮らしています。

東西冷戦の時代には、資本主義の行き過ぎが抑えられていました。しかし、ソ連の崩壊で資本主義が勝利し、世界は自由な市場を拡大することに邁進します。「トリクルダウン」、つまり豊かな者がより豊かになれば、その下の層も恩恵を受けるという考えは、もはや通用しないようです。

「お金」を発明した人類。貨幣経済の下では格差は当然の結果なのでしょう。

欲望と競争に裏打ちされる資本主義では、貧富の差は必然なのでしょう。

才能があるもの、努力したものが富を得るのは当たり前ののでしょうか。

そもそも高い評価や報酬をもたらすのは努力なのでしょう、才能なのでしょう、運が良かっただけなのでしょう。

貧富の差はどこまで許されるのでしょうか。

貧しさが生む薬物依存や麻薬犯罪。そして犯罪と貧困の悪循環。スラムやホームレス状態から抜け出すにはどうしたらいいのか。

ヒトは他人を出し抜いて富を得ようとする一方、他人の不幸に手を差し伸べる利他的なマインドも持っています。番組を通じて富豪の世界、貧困の世界を体感し、富の偏在と貧富の差について考えてみましょう。

BS世界のドキュメンタリー

すべてのホームレスに家を



「欲しいものを3つあげるとしたら?」。ホームレスへのインタビューをYoutubeに公開する元ミュージシャンのマークは、自分も薬物依存から家を失ったことがある。誰もが簡単にホームレスになってしまうアメリカの深刻な状況を伝え、「全員を救いたい」と奮闘する。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い! 見るだけで“読む”!
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何?
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった?
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何?
「資本主義」ってどうよ

15 貧富の差について考えてみよう

- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何?
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

大統領の命令の下で ～密着 フィリピン麻薬撲滅戦争～



「ドイツにはヒトラーがいたが、フィリピンには私がいる」。ドゥテルテ大統領は社会問題化した麻薬犯罪の取り締まりを強化したが、人権侵害だとの批判も。国の「お墨付き」で、警官による「人殺し」が横行する実態を、内部取材から浮かび上がらせる。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

16. 権力者たちの思考回路

人が歴史を作るのか、歴史が人を作るのか。古来議論されてきたテーマです。

ライブラリーで視聴できる番組では、権力者がいかに権力を握ったのか、権力を得るために「選挙」をいかに戦ったのか、そして彼らをその座に押し上げた社会に何があったのか、様々な角度から描いています。

民主主義国家の制度の根幹をなす選挙ですが、落選すると「不正選挙」を叫んだトランプ氏のアメリカだけでなく、SNSやインターネットの影響で、その公正さに疑いが持たれることも少なくありません。しかし選挙という装置が、権力者を生み出す舞台であることは今も変わらないのです。

古代ギリシャの哲学者ソクラテスは、選挙での投票は技量であり、他の技量と同様、体系的に人々に教える必要があると語りました。ソクラテスの弟子のプラトンは、民主主義から暴君は生まれると考えました。

人々の不満を吸い上げ、その原因は多数派＝マジョリティの外部にあると糾弾し、民衆の人気を得る。ヒトラーは第一次世界大戦の重い賠償金に苦しむ人々に、悪いのはユダヤ人だとして「敵」を作り、大衆の人気を得ました。そして当時まだ新しいメディアだった映画やラジオを活用し、短く分かりやすいスローガンを掲げ、人気を得たのです。

トランプの手法もよく似ています。「ラストベルト」（さび付いた工業地帯）の白人労働者たちの不満をすくい上げ、悪いのは安価な労働力を提供する移民たちだとし、「アメリカ・ファースト」「アメリカを再び偉大に!」といった分かりやすいスローガンを掲げ、リアリティーショーのホストで得た知名度とSNSという新しいメディアを活用し、大統領にまで上り詰めました。

フィリピンのデュテルテ元大統領は、「私はフィリピンのヒトラーだ」とうそぶきつつ、欧米からは人権軽視だと指弾される強硬な手段で、麻薬取引を取り締まりました。メディアへの圧力も辞さない強権的な姿勢でしたが、率直な物言いと質素な暮らしぶりもあって、国民からの支持率は高かったのです。

選挙で選ばれたリーダーではありませんが、人類史上最大の富豪と言われるジョン・ロックフェラーは、強引な手段で競争相手をたたき、「悪魔」と呼ばれることもありました。一方、信心深く、慈善事業にも力を注ぐ、多面的な人物でした。スターリンは、権力を手中にするためには、敵だけでなく仲間も粛正する冷血な人物でした。ドイツの捕虜となった息子を見捨てるなど、家族をさえ犠牲にしました。

今日、中国、ロシア、トルコ、ハンガリーなど、強権的な手法をとるリーダーがいます。ボリス・ジョンソン元英国首相やボルソナロ・ブラジル前大統領、フランスで2022年の大統領選を戦ったマリー・ルペンのようにポピュリズムに立つ政治家もいます。

権力者たちは、人間とはどんな生き物かを知るいい見本です。また、彼らをトップに押し上げた社会のありようを探る良い教材です。

映像の世紀 デジタルリマスター版

第4集 ヒトラーの野望



「自由と幸福は突然、空からは降ってはこない」と「ドイツ復活の闘争」を派手な身振りで国民に呼びかけたアドルフ・ヒトラーは、熱狂的な支持を集めた。一体なぜ？ 巧みな演説手法とプロパガンダ映画からその秘密に迫ろう。世界恐慌の絶望からファシズムの台頭へ。ナチス・ドイツの狂気は、世界を戦争に巻き込んでいく。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

大統領の命令の下で ～密着 フィリピン麻薬撲滅戦争



「ドイツにはヒトラーがいたが、フィリピンには私がいる」。ドゥテルテ大統領は社会問題化した麻薬犯罪の取り締まりを強化したが、人権侵害だとの批判も。国の「お墨付き」で、警官による「人殺し」が横行する実態を、内部取材から浮かび上がらせる。

トランプ対バイデン ～2020年アメリカの選択～ 前編



トランプは厳格な父の教えを守り、強引な手法で不動産業で成り上がる。メディアを操り、ライバルを蹴落とし、大統領に上り詰めたトランプ。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

プーチン 戦争への道 ～なぜ侵攻に踏み切ったのか～



なぜ、プーチンはウクライナとの戦争に踏み切ったのか。KGB職員時代に経験したソ連の威信の失墜、チェチェン紛争を利用した地歩固め、旧ソ連領での民主化運動への懸念。そして欧米への反発と「偉大なる国家」復活への野心。プーチンの行動を振り返りながら、ウクライナ侵攻に到る真相を探る。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

17. 揺らぐ「民主主義」

第二次世界大戦中、イギリスの首相を務めたウィンストン・チャーチルの次の言葉は、「民主主義」を語るときにしばしば引用されます。

「民主主義は最悪の政治形態といわれてきた。他に試されてきたあらゆる形態を除けば」

チャーチルは1947年 イギリス下院でこの演説を行いました。世界が自由主義陣営と社会主義陣営に分かれて対立する時代でした。では、社会主義は民主主義ではないのでしょうか。レーニンやスターリンとともにロシアに革命を起こしたトロツキーは「社会主義は民主主義を必要とする。人間の身体が酸素を必要とするように」と言っています。混乱しますね。もっともトロツキーは政権から排除され、暗殺されてしまいます。そしてスターリン支配下のロシアは、自由のない全体主義社会となります。

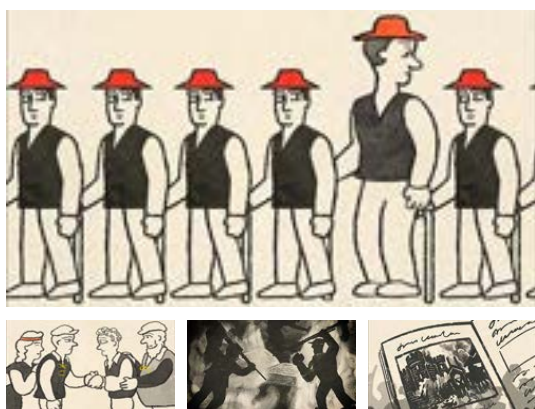
冷戦が終わったとき、アメリカの政治学者フランシス・フクヤマによる『歴史の終わり』という本がベストセラーになりました。自由主義・民主主義こそが政治の最終形態であるとする立場が書かれていると読者は理解したのです。しかし、西側民主主義世界の自信は程なくして揺らぎ始めます。

民主化を求める「アラブの春」は、2010年にチュニジアで始まりました。エジプトに飛び火して長期独裁政権が倒されましたが、やがて軍事政権になりました。ミャンマーのアウンサン・スーチーの政権も、軍事クーデターで短命に終わりました。コロナ下で独裁色を強めた国々も複数あります。2021年8月、アフガニスタンでは、選挙で選ばれた大統領による政権が終わり、イスラム原理主義のタリバンによる支配が復活しました。

民主主義とセットで語られる自由主義。日本は一般的に同調圧力が強いと言われます。みなさんも「空気を読む」ことを期待されて、息苦しく感じることもあるのではないのでしょうか。SNS(またはソーシャル・メディア)では、極端な意見は「炎上」しがちです。異質なものを排除する傾向は古今東西存在してきました。快活で健全な「自由」はどうすれば手に入るのでしょうか。

一般的に民主主義は古代ギリシャで生まれたとされます。そして、スペインの哲学者オルテガが言うように、現在の社会秩序は先人たちが営々と築き上げてきたものであり、「諸権利は死者たちが命をかけて獲得し守ってきた」ものでしょう。

チャーチルが言うように、「民主主義」が、たとえベストでなくても、よりまともな政体であるとするれば、私たちはそれをどうやってより良いものに洗練させていけばよいのでしょうか。例えば、銃を保持する「自由」は正しいのでしょうか。なかなか難しい問題です。考えるヒントとなりそうな番組をあげてみました。あすを生きるみなさんに、社会の基盤となる問題を考えていただきたいです。



100分de名著

オルテガ『大衆の反逆』

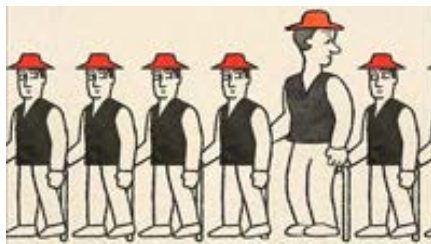
【4回シリーズ】

20世紀に活躍したスペインの哲学者オルテガは、急激な産業化や大量消費社会の中で生まれた「大衆」が社会の中心で支配権をふるまうようになったと分析し、このままでは文明は衰退すると警告。現在の民主主義の限界をあぶり出したといえるこの名著から、あるべき社会とはどんなものなのか考えてよう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

オルテガ『大衆の反逆』 (1)大衆の時代



ネットとSNSでいつも他人の動向に気を取られてませんか？オルテガは「みんなと違う人、みんなと同じように考えない人は、排除される危険性にさらされ」、同質化の波に吞まれると言います。こうして生まれた「大衆社会」の問題点を見てみましょう。

オルテガ『大衆の反逆』 (2)リベラルであること



オルテガは大衆化に抵抗する自由主義を擁護します。「異なる他者への寛容」「敵とともに共存する決意」にリベラリズムの本質はがあると説きます。意見の異なる他者に、イデオロギーを振りかざして闘うのではなく、対話を重ねる。そこに人間の美しさがあると。

オルテガ『大衆の反逆』 (3)死者の民主主義



過去より現在の方が優れているとの思い込みが民主主義を劣化させるとオルテガは説く。現在の社会秩序は先人たちが営々と築き上げてきたものであり、諸権利は死者たちが命をかけて獲得し守ってきたものだ。我々は過去の英知とともに生きているでしょうか。

オルテガ『大衆の反逆』 (4)「保守」とは何か



オルテガは合理的に社会をデザインし、急進的な改革を求めるだけではダメだと。歴史の中の英知に耳を傾けながら「永遠の微調整」を進める「保守思想」。伝統や良識、経験値に学ぶメリットを考えてみよう。



100分de名著

ル・ボン『群集心理』

【4回シリーズ】

フランス革命で社会の中核に躍り出た「民衆」。心理学者ル・ボンは「暗示」を受けやすい民衆は「衝動」の奴隷になっていると指摘。ネットやSNSによって、他者の動向に注意を払う現在の私たちも、暗示に感染しやすい「群集」だ。SNS時代にも通じる「群集心理」のメカニズムを、社会心理学の先駆者に学ぼう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

第2回 自由が善と悪を取り違えるとき



自由すぎると管理してほしくなるのが人間のサガ。過剰な自由は過ちを犯すことを意味する。アメリカ銃乱射事件の要因とは？ 自由が「消費の選択」だけを意味しかねない現在。ポップでキッシュなアメリカというワンダーランドの本質に踏み込む。

BS世界のドキュメンタリー

トランプ対バイデン ～2020年 アメリカの選択～ 後編



ライバルを蹴落とし、メディアを操り、大統領に上り詰めたトランプ。ライバルを味方に引き入れ、人々に寄り添うスタイルで支持を集めるバイデン。人種差別、社会の分断、新型コロナ…対照的な二人は、アメリカ社会の問題にどう向き合ってきたのか？

BS世界のドキュメンタリー

こどもに広がる銃社会



学校での銃乱射事件などが起きるたび、銃の売れ行きはますます伸びる。銃を持っていた方が安全だし、憲法で所持の保障がされているから。銃所持が低年齢化し犠牲を生む銃社会って一体どうなっている？

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

18. 「グローバル化」の功罪

「グローバリゼーション」(グローバル化)とは何か。

定義は専門家によって様々でしょうが、簡単に言ってしまうと、国と国との相互依存関係が深まっている状態です。グローバル化がいつ始まったのかも、専門家の間でも意見が分かれるトピックです。ある人は人類発祥から始まっていたと言い、ある人は アレクサンダー大王がアジアに遠征し、ギリシャ文明を拡大させた時からだと言います。モンゴルの騎馬民族によるユーラシアの席卷こそ、グローバル化を象徴する出来事だとする歴史家もいます。大航海時代に新大陸が「発見」され、ヨーロッパ世界が地球規模に拡大した時からだとする人もいます。

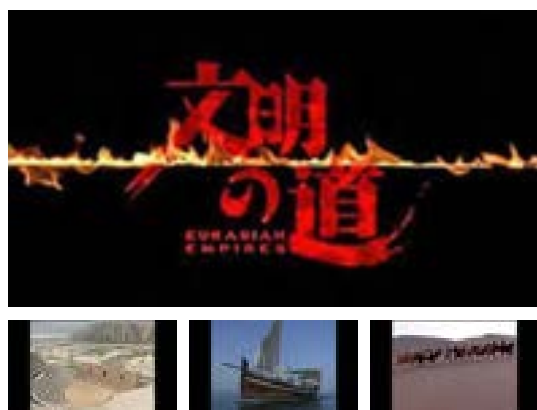
戦後日本が海外との諸関係を深めていく中で、「インターナショナル化」(国際化)という用語が使われていましたが、近年では文化や経済の地球規模の拡大現象を「グローバル化」と呼ぶようになりました。社会主義の崩壊で資本主義が幅を利かせ、規制緩和や自由競争が進みました。また、技術の進展で輸送や通信のコストが減り、インターネットによって情報革命が起きました。コロナで人の自由な行き来が阻害されても、貿易を通じた相互依存は続いた。世界が一体となって取り組まないとならない感染症予防、温暖化対策といった地球規模の問題も増えてきました。

第二次世界大戦が終結した時、あまりの犠牲と荒廃に、世界各国は戦争を未然に防ぐさまざまなメカニズムを構築しました。核の危機が叫ばれた冷戦期は、地域紛争はあっても世界戦争はなく、世界の人口は増え、平均寿命は伸び、非常に大雑把な言い方をすると、世界は一体となって繁栄を謳歌しました。

しかし本格的なグローバル社会の到来と言われる1980年代以降、貧富の差は拡大しています。21世紀のうちに1500もの言語が消滅すると予測する研究があります。世界中でコカコーラとマクドナルドが提供され、伝統食が衰退。ネットフリックスが世界中で見られる一方、各国各地の伝統芸能は消えつつあります。そうした状況に異を唱えた「Act locally, think globally」というスローガンがあります。「ローカル」と「グローバル」をくっつけて「グローカル」という言葉も作られました。

2022年2月、ロシアがウクライナに侵攻すると、世界は欧・米・日本などの民主主義国家群と、ロシア・中国・インドなどに二極化され、グローバル化は終わったとする論調がありますが、果たしてそうでしょうか。日本を含む西側諸国はロシアに制裁を加えます。するとエネルギーや穀物をロシアから輸入していた国々は、しっぺ返しのように値上がりに苦しみます。この現象もまたグローバル化の所産ではないでしょうか。

世界の一箇所で起きた出来事が、全世界に影響を及ぼすのです。世界は多重な網によって緊密に結び付けられているのです。リストに上げたいいくつかの番組を試聴して、グローバル化の起源、その功罪、そしてより良い世界を作るヒントを見つけましょう。



NHKスペシャル 文明の道 【7回シリーズ】

広大なユーラシア大陸では、衝突と融合を繰り返し、互いに影響し合いながら文明が興亡した。千数百年にわたる文明のダイナミズムを見つめ、歴史的な場面をCGで再現する。宗教対立が様々な混乱を起こしている現在、交易から利益を得て、対立を回避し、多民族の共存と融和を目指した古代人に見習うべきことは多い。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」

18 「グローバル化」の功罪

- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

①アレクサンドロス大王 ペルシャ帝国への挑戦



第1回では新たなアレクサンドロス像に迫る。強敵ペルシャを倒し、空前の世界帝国を築いたが、戦いの一方で敵の長所を取り入れ、文明の融合を進めた。多民族の共存共栄を目指した新たな大王像を提示する。

BS世界のドキュメンタリー

バタフライ・エフェクト ～歴史的妄想のススめ～ チンギス・ハン



世界中を恐怖に陥れたチンギス・ハン。彼の人生のターニングポイントから、CGアニメと美女ロボットの案内で、世界史のifを探る。10代での結婚、異母兄弟の殺害、妻の略奪、幼なじみとの対立…暴力に目覚めた男は巨大帝国のリーダーへとの上上げていく。

欲望の経済史 ルールが変わる時

②空間をめぐる攻防 ～グローバリズムと国家～



安い場所で買い、高い場所で売る。大航海時代末期のイギリスは場所による価格差で世界で荒稼ぎ。それに対抗しようとオランダが考え出したのが「株」。そして今、本家イギリスや最大の資本主義国アメリカは自由主義へ異議を唱えている。一体なぜ？ 揺れるグローバリゼーション、対立する国家…資本主義の行末はいかに。

シリーズ欲望の経済史 日本戦後編

⑥ITグローバル化 改革の嵐の中で OS



8割を超える支持率を得た小泉内閣による改革の嵐。郵政民営化や大型ショッピングモールの開発ラッシュなどグローバルスタンダード化が進み、日本経済はバブル崩壊の後遺症から立ち直るかに見えたが…アメリカのGAFAの台頭、中国の経済大国化と世界は激動している。安定か、挑戦か。キミたち若い世代は今後どのような生き方を模索するのか。

BS世界のドキュメンタリー

食品偽装大陸ヨーロッパ



馬肉を混入させた「牛肉」。植物性タンパクが混入された冷凍肉。マフィアが偽装した「エキストラバージンオイル」…ヨーロッパで拡大する食品偽装は深刻で、EUは偽装は簡単で、取締りは難しいとしている。食肉からマグロまで。食品偽装がどのように行われ、どのように市場に出回るのかを潜入ルポなどで明らかにする調査報道。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

19 スーパーパワー アメリカの大統領たち

2025年1月、アメリカ大統領にドナルド・トランプが再び就任しました。

就任演説では「アメリカの黄金時代がいまから始まる」と述べ、「アメリカ第一主義」を強調しました。トランプ大統領の一手一投足が、世界から注目されています。アメリカの指導者・大統領の政策や言動が、世界の動きを左右するからです。

1991年、ソビエト連邦が崩壊した直後、アメリカ合衆国は「唯一の超大国」と形容されるようになりました。国際政治学者のフランシス・フクシマの『歴史の終わり』は、東西冷戦は自由主義・民主主義の勝利に終わったとし、ベストセラーとなりました。その自由主義・民主主義の擁護者で、「世界の警察官」となったのが、アメリカ合衆国でした。

21世紀に入ると中国が台頭します。2010年、中国はGDP(国内総生産)で日本を追い越し、世界第2の経済大国となります。2013年にはオバマ大統領は「アメリカは世界の警察官ではない」と宣言します。多くの識者が中国はやがてアメリカと肩を並べるだろうと予測しました。コロナ禍でその差は急速に縮まり、アメリカが「唯一の超大国」と呼ばれることは、もはやなくなりました。社会内部の分断、民主主義の劣化から、アメリカはもはや自由世界、民主主義国家群のリーダーではないという言説も増えています。

しかし、もう少し長いスパンで見してみましょう。二度の世界大戦を経て、世界の4分の1を支配していたイギリスが凋落し、米ソの二極体制が長らく続きましたが、アメリカのドルは世界の基軸通貨となりました。経済規模は今でもナンバー1。ストックホルム国際平和研究所によると2023年、アメリカは世界の総軍事費の37.5%を占め、中国の12.1%を大きく引き離しています。ちなみにロシアは4.5%。日本は2.1%です。ハリウッド映画、アメリカン・ポップス、コカコーラ、マクドナルド…文化的にもアメリカの「ソフトパワー」は健在です。

軍事力・経済力・政治力・文化力で20世紀後半、世界をリードしてきたアメリカ。その指導者は、一般投票と選挙人投票という2段階のプロセスを経て選ばれます。行政のトップであるのはもちろん、外交の最高責任者、世界最強の軍の最高司令官であり、議会に対して拒否権を持つなど、強い権限を握っています。

大統領が交代すると政府高官の大幅な入れ替えが行われ、外交を含め、劇的な政策変更がしばしば起こります。2025年3月の時点で、ウクライナ停戦への動き、そして領土の拡大を唱えたことで様々な国との摩擦も生じ始めています。

アメリカ大統領の政治理念を知ることは、世界の変化を占う上で極めて重要です。そして歴代のアメリカ大統領を知ることは、世界の現代史を知る基礎教養と言えます。配信している番組の中から、歴代大統領について学べるコンテンツをピックアップしてみました。歴史と現在と、そして未来を知る手掛かりとなれば幸いです。

映像の世紀 デジタルリマスター版

第7集 勝者の世界分割



【ルーズベルト、トルーマン】「世界の支配なんて簡単だ。太平洋はいただく」。アメリカ大統領の言葉だ。イギリス首相とソ連首相と3人で、第二次世界大戦後の世界を分割する密約を結ぶ。その結果、多くの人々が住み慣れた土地を追われ、同じ民族が引き裂かれる悲劇が。そして始まった東西冷戦。お隣の朝鮮半島が南北に分かれている歴史的背景を知ろう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

第8集 恐怖の中の平和



【ケネディー】「人類は自らを破滅させる手段の開発にエネルギーを浪費している。世界は2つの陣営に分割され、互いに相手を全滅させる準備を進めている」。ソ連の指導者フルシチョフの言葉だ。彼のミサイル配備計画が起こしたキューバ危機は、人類を核戦争一歩手前まで追い込む。伝説のセックス・シンボル、マリリン・モンローの貴重な映像も。

第9集 ベトナムの衝撃



【ジョンソン】「地獄の黙示録」、「プラトーン」…今なお数々の映画が扱うベトナム戦争。テレビで初めて戦場の生々しい映像が伝えられた。「人々が自由の名において殺されるのを黙って見てはいられない」。巻き起こる反戦運動とサブカルチャー。生々しい映像で、民衆が犠牲となったベトナムの惨状と価値観が揺らぐアメリカ社会を描く。

スターウォーズ レーガンのハッタリ



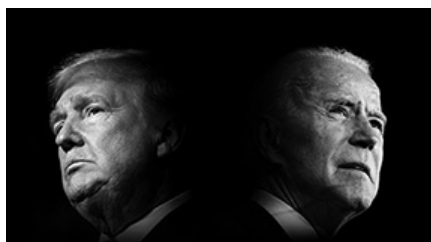
【レーガン】冷戦終結の秘密は元ハリウッド俳優・レーガン大統領の一世代の大芝居に!? 大ヒット映画「スターウォーズ」になぞらえた巧みな筋書きがアメリカを勝利に導いた。世界を分断した冷戦。謀略に満ちたその舞台裏を知り、「新冷戦」を迎えつつある世界について考えよう。

トランプ対バイデン ～2020年アメリカの選択～ 前編



「何事も勝つためにやれ!」。トランプは厳格な父の教えを守り、強引な手法で不動産業で成り上がる。一方バイデンは、吃音を乗り越え、「屈せずやり抜く」精神で政治家に。しかし家族に悲劇が…。米大統領選を戦った二人の生い立ちと素顔に迫る。

トランプ対バイデン ～2020年 アメリカの選択～ 後編



ライバルを蹴落とし、メディアを操り、大統領に上り詰めたトランプ。ライバルを味方に引き入れ、人々に寄り添うスタイルで支持を集めるバイデン。人種差別、社会の分断、新型コロナ…対照的な二人は、アメリカ社会の問題にどう向き合ってきたのか?

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い! 見るだけで“読む”!
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何?
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった?
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何?
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何?
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

20. イスラム教って何？

クリスマスを祝い、除夜の鐘を突き、初詣に行く日本人は、フシギの国の住民かもしれません。

文化庁の調査では、各宗教団体から報告された信者の数は総人口の約1.5倍。一方である世論調査では、特定の宗教を信じているという人は1～3割台。???ですね。日本社会では通常どの宗教、どの宗派を信仰しているかはさほど重視されず、結婚式や葬式やお墓の算段にならないと、あまり宗教を意識しないものです。

世界で信者数が多いのはキリスト教、次いでイスラム教、ヒンズー教、そして仏教です。日本人は仏教、キリスト教のことはわかるが、イスラム教についてはほとんど知らないのではないのでしょうか。あるいはイスラム過激派によるテロ事件のニュースに接し、なんとなく近寄りがたい宗教というイメージを抱く人もいるでしょう。

また、キリスト教とイスラム教は『旧約聖書』を共通の聖典としていることを知っている方でも、両宗教、さらにユダヤ教が同じ源を持ちながら、歴史的にいがみ合い、今日まで緊張関係にある理由は、なかなか理解できないのではないのでしょうか。ユダヤ教の国イスラエルとユダヤ教のパレスティナは共に一神教を奉じながら、前者は神をやハウェと、後者はアッラーと呼び、戦っているのです。

大航海時代以降、世界各地を植民地とし勢力を伸ばしてきたキリスト教世界。しかし、それ以前は最大の文明はイスラム世界でした。商業が活発で、人頭税を払えば領内の「異民族」の信仰を許すなど、寛容で公正な社会だったとされています。キリスト教社会のいわゆる「暗黒の中世」で途絶えたギリシャ・ローマの文化や科学的な思考を受け継いだのは、イスラム世界でした。

2010年、チュニジアから始まった「アラブの春」は、中近東で長期独裁政権を倒しましたが、曲がりなりにも安定していた社会は揺らぎ、その混乱の中から、イスラム原理主義を踏まえた、IS(イスラミック・ステート)などテロを辞さない勢力も生まれました。

2021年8月、アメリカがアフガニスタンから駐留軍を引き上げると、かつての支配者タリバンが政権を握りました。女性は小学校までしか行けず、社会進出を阻まれています。首都カブールは「東洋のバリ」と呼ばれた時期もありました。いまアフガンは世界の最貧国の一つです。一見「歴史の逆行」のような事態はなぜ起きたのでしょうか。

2022年9月、イランでヒジャブと言われるヘッドスカーフの付け方が正しくないとして「道徳警察」に拘束された22歳の女性が亡くなると、抗議デモが始まり、SNSで拡散して大規模な反政府デモとなりました。批判の矛先は最高権力者である宗教界のリーダーにも向けられました。一方、女性の行動に厳しい制限があったサウジアラビアでは、女性が自動車を運転したり、スポーツを観戦できるようになり、働く女性が増えました。

中世の繁栄、キリスト教徒の対立と和解、そしてテロを引き起こす過激派組織の背景、行動に規制の多い宗教国家の中での人々の生活の変化…日本人にはなかなか理解しにくいイスラム教について、番組を視聴しながら学んでみましょう。

NHKスペシャル 文明の道

⑥バグダッド 大いなる知恵の都



テロの脅威が続くイラクの首都・バグダッド。かつて「平和の都」と呼ばれ、人口100万の世界最大の街として繁栄を極めた。イスラムの公正さが生み出した広大な商業圏、その中心として輝いた、驚くべき姿！

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

⑦エルサレム 和平・若き皇帝の決断



キリスト教徒とイスラム教徒による十字軍の戦い。この宗教対立は21世紀の今も続いている。聖地エルサレムを巡る狂乱めいた争奪戦の最中、一滴の血も流さず、交渉によって平和をもたらした若きリーダーの英邁な決断！

BS世界のドキュメンタリー

イラン 禁断の扉



イランってどんな国？ 飲酒はダメ、犬を飼ってはダメ、音楽・SNSほぼダメ、ダンス、ハグ、短パン、スカート、全部禁止。ルールを破ったらムチ打ち刑。でもこんな日常はつまらない。若者たちは命がけでパーティーを楽しみ、オシャレをしてショッピングを満喫する。フランスの取材班が隠しカメラでとらえた真実。

BS世界のドキュメンタリー

フランスで育った“アラーの兵士”



フランス育ちのイスラム教徒のジャーナリスト・サイドは、ネットで知り合ったテロリストグループに命がけで潜入。テロリストの正体は、社会から疎外され、居場所のない若者たちだった。サイドは見知らぬ女性からリーダーからとしてテロ攻撃の指示を受け取る。

BS世界のドキュメンタリー

“IS掃討作戦”の真実



自爆テロで世界を恐怖に陥れた過激派組織・IS「イスラミック・ステート」。彼らの目的は一体何だったのか。今まさにIS消滅後の中東の勢力図をめぐって政治的な駆け引きが。複雑な「中東問題」の歴史的な背景を含め、国家間のパワーバランスを探ってみよう。

BS世界のドキュメンタリー

アフガニスタンの亡霊



2001年、アメリカを中心とする西側は、民主主義・自由・女性の権利を約束してアフガンに侵攻。4年後、アフガンに入った一人のカナダ人ジャーナリストは、戦争の巻き添えになった市民や拷問されるタリバン兵を目撃。混乱の中、多くの市民が怯えながら生活し、犠牲を強いられてきた実態を探る。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

21. 移民と難民について考えてみよう

2024年、UNHCR・国連難民高等弁務官事務所は、紛争や迫害によって故郷を追われた人は1億2,000万人、これまでで最大の増加で史上最大の数と報告しました。世界の人口は約80億。80人に1人が故郷を離れたのです。イスラエルのガザ侵攻によって、パレスティナ難民は仮の住まいさえ追われ、命を危険に晒しながら、劣悪な避難生活を余儀なくされました。

20世紀は「難民の世紀」と言われましたが、21世紀も「難民の世紀」であり続けています。古来、住み慣れた母国を離れる原因は、戦乱や民族紛争、宗教対立、政治的弾圧などでした。20世紀、新たな要素が加わりました。飢餓と環境問題です。干ばつや洪水によって農作物を失った人々は、もはや自国には住むことができません。その一因は地球温暖化です。海面上昇により、自分の島を離れざるを得ない南太平洋の島民もいます。

意外な要因もありました。冷戦の終結です。1980年代後半まで、東ヨーロッパやソビエト社会主義共和国連邦は、宗教や政治の自由を認めず、民族間・国家間の紛争を許しませんでした。圧政の中に秩序がありました。しかし、15の共和国から構成されていたソビエト連邦が分裂すると、抑圧されていた民族的な憎しみや怒りが爆発し、地域紛争のため、難民が増えたのです。そして2022年、ロシアが、民族的にも言語的にも兄弟のような関係だったウクライナに進攻。現在も全人口4,200万人の4分の1が国内外で避難生活を余儀なくされ、帰還の目処が立っていません。

「難民」と「移民」の区別は難しいところがあります。1951年の「難民条約」では難民は、人種、宗教、国籍もしくは特定の社会集団の構成員であること、または政治的理由によって、迫害を受けるおそれがある者としています。

オーストラリアは航海者クックによって「発見」された後、イギリスの流刑地となり、そして移民大国となった歴史を持っています。アメリカ合衆国も移民大国ですが、両国とも時代により、移民を法的にどう扱うのかは異なってきました。「不法移民」とされた母子の個別ケースを取り扱った海外ドキュメンタリーからは、移民の置かれた立場やアイデンティティの問題を学べるでしょう。

太古より、ヒトはより良い暮らしを求めて、住処を離れてきました。私たちの祖先はアフリカから世界中に広がっていきました。アジア大陸部から東南アジア島嶼部や太平洋の島々へのホモ・サピエンスの移住は、「好奇心」が関わっていたという研究もあります。居住環境に問題がなく、食糧も十分にあるのに、波間の彼方に島影を認めた島民が、船を漕ぎ出していったケースもあったはずです。

ヒトが住み慣れた場所を離れ、国境を越えざるを得ない事態を、そして移動した人々がどんな境遇で暮らしてきて、今、どのように暮らしているのか。いくつかの番組から見てみましょう。

映像の世紀 デジタルリマスター版

第10集 民族の悲劇果てしなく



20世紀は「難民の世紀」だった。戦火、民族紛争、宗教対立により行き場を失くした人々の悲劇。「汚れた血が流れている者は浄化せねばならない」。憎悪、怨念、恐怖。「難民の父」と呼ばれた男の演説は、難民が増え続ける現在の私たちにも響く。「皆さんにも家族があるでしょう。自分の妻子が飢えて死ぬのを見るのは、どんな気持ちでしょうか」。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

告白 僕は不法移民なのか? ～米移民法改正議論～(前編)



移民国家アメリカ。アメリカ人の定義とは何か? それを証明するものは? プリツァー賞受賞ジャーナリストのヴァルガスは突然、自分がフィリピンからの不法移民であることを公表する。前編では彼の生い立ちから、アメリカの移民制度の複雑さを探る。

フロンティア

告白 僕は不法移民なのか? ～米移民法改正議論～(後編)



不法移民だと公表したアメリカのジャーナリスト・ヴァルガスは、常におびえながら生きてきたと語る。後編では国と直接対峙、移民法改正に向けた公聴会で、自分たちの境遇を訴える。二大政党の異なる主張。アメリカの政権交代で不法移民たちはどうなるのか?

NHKスペシャル ヒューマン なぜ人間になれたのか

第1集 旅はアフリカから始まった



「仲間」であることを示す装飾具の相次ぐ発見から分かってきたことは、「絆」を確認しあう大切さ。そして、大噴火という逆境が遠く離れた集団との交易を促したことも。「ともに生きる」という人間集団の基本が確立した過程をたどる。

NHKスペシャル 人類誕生

第3集 ホモ・サピエンス ついに日本へ!



生誕の地・アフリカから全世界に広がった人類。その繁栄の秘密は「最も到達困難な」日本への道にあった。大海原と極寒の大地が、熱帯生まれのヒトの旅を阻む。ホモ・サピエンスの大拡散を可能にした技術と発明品とは? ヒトの進化の行く末を見せる。

BS世界のドキュメンタリー

ガザに留学した医学生



2025年1月、イスラエルとハマスの停戦が発効した。大規模な軍事攻撃にさらされたパレスチナの町・ガザに留学したイタリア人医学生の体験を等身大の目線で描く。イスラエルのフェンスに封鎖され「天井のない監獄」と言われたガザで、医学を志す留学生は何を感じたのか。イスラエルとハマスの戦闘が起きる前、若者が体験した「ガザでの日々」を追った迫真のドキュメンタリー。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア=最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い! 見るだけで“読む”!
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何?
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった?
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何?
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何?
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

22. 日本の「戦争」と「組織」について考える

80年も戦争のなかった日本は世界でもまれな国ですが、あの戦争の時代は「特異」な時代で、軍国主義という極端な思想に染まった極端な集団(軍部)がしかした戦争で、一般の国民は巻き込まれただけという言説が長い間まかり通ってきました。最近の歴史研究は、そうではないことを明らかにしつつあります。民衆が軍国主義への傾倒を後押しし、戦争を支持していた面もあること、戦前と戦後はスパッと時代区分できるような社会構造の断絶があるわけではないこと、そして、日本軍は日本型組織の典型であり、その組織のありようが、失敗＝敗北の大きな要因であることなどです。

「空気を読まない奴」とよく言いますが、この「空気」とはいったい何でしょう。山本七平は『空気の研究』(1977年)で、論理を超えてその場を支配する絶対的な力を持つ「空気」について考察しました。アメリカは豊富な資源と工業生産力を持ち、国民総生産は日本の12倍でした。国力の差は明らかなのに、なぜ開戦へと進んだのか。政府上層部の意思決定の場を「空気」が支配し、戦争に反対できず、開戦に突き進んだ面がありました。

『失敗の本質―日本軍の組織論的研究』(1984年)では、6人の軍事史家たちが組織論の観点から、日本軍の失敗について論じました。戦争目的はあいまいで、終結の目標もあいまい。敵を過小評価し、自己を過大評価する精神主義。根回しとすり合わせによる意思決定。論理より声の大きい者を許容。

それってうちの会社の話? うちの部活の話? と思う方もいると思いますが、日本軍は、日本の組織の典型。その特性を知ることが日本型組織の本質を探ることにつながります。太平洋戦争の6つの戦いから、敗因を探った「ドキュメント 太平洋戦争」シリーズ。番組を視聴して、おびただしい犠牲の背景にあった、「ピア・プレッシャー」(同調圧力)や「なあなあイズ」を探ってください。

「敵を知り己を知る」必殺法ではなく、「敵も知らず己も知らず」だった日本軍、戦艦大和など一点突破的な偏った技術開発を重んじ、安全や防御のための技術を軽んじた軍、アジアの占領地で自分達の価値観を押し付けて反感を買った占領軍…太平洋戦争の敗因から、今日のわたしたちが学べることは少なくありません。



NHKスペシャル ドキュメント 太平洋戦争

【6回シリーズ】

太平洋戦争のターニングポイントになった戦局から、日本の敗因を分析した6回シリーズ。日本への物資の補給ルート、ガダルカナル戦、マリアナ沖海戦、インパール作戦、レイテ戦、日ソ終戦工作を取り上げながら、教訓に学ばない軍の傲慢さ、責任の所在の曖昧な日本の組織や現地住民を敵に回した結果が引き起こした悲劇などを描いた。戦争という局面に限らず、日本人の弱点や組織論を学ぶことができる。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い! 見るだけで“読む”!
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何?
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった?
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何?
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何?
- 21 移民と難民について考えてみよう

22 日本の「戦争」と「組織」について考える

- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

①大日本帝国のアキレス腱 ～太平洋・シーレーン作戦～



日本経済は、原材料や燃料を輸入し製品を輸出して成り立っている。この事情は戦前も同じ。アジアの資源を奪いながら戦争を拡大させた日本。それを支えた輸送船はアメリカの潜水艦に次々と沈められる。穴の空いたバケツで水を運ぶような、惨めな失敗がもたらしたものは。

②敵を知らず己を知らず ～ガダルカナル～



ガンバれば勝てる。闘魂が大事…スポ根ではありません。「武器は日本軍にとってはアクセサリ」とアメリカ軍は分析した。どういうこと？ 日本の研究委員会による「精神力だけでは対抗できない」という提言はどう扱われた？ 自分を過信し、敵を侮り、学ぶことを忘れる日本陸軍の体質が、数々の悲劇を生み、敗戦へと向わせた。

③エレクトロニクスが戦を制す ～マリアナ・サイパン～



戦争には科学技術の戦い、新兵器の開発競争という局面がある。太平洋戦争当時、日本には優れた科学者がいながら、その力を生かせなかったのはなぜか？ アメリカのレーダーに捕捉された日本軍機は次々と撃ち落とされた。攻撃優先だった軍部の方針は、安全や環境を優先させない戦後の企業のあり方に繋がってはいないか。

④責任なき戦場 ～ビルマ・インパール～



「この作戦は危険すぎる」「しっかり準備したから大丈夫です」「そこまでいうならやってみるか」。政治的な思惑や野心から行われた戦いで3万人以上の兵士が死んだ。誰か責任を取ったのか？ 冷静で客観的な少数意見は無視され、言った本人は窓際に。それうちの部活の、会社の話じゃんと思ったあなた、必見です。

⑤踏みにじられた南の島 ～レイテ・フィリピン～



占領したアジアの国々で日本語や日本の価値観を押し付けたらどうなる？ 反日感情からゲリラが生まれたが、日本軍はゲリラと市民が区別できず、無差別に殺害。さらに反日は強まる。太平洋戦争は日米の利益争奪戦だった。その後アメリカはベトナムで二の舞を演じる。アジアは二頭の象の争いで踏みつぶされた蟻なのだろうか。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

⑥一億玉碎への道 ～日ソ終戦工作～



敗色濃い日本は和平への望みを仮想敵国だったソビエトに託す。しかし、ソ連は日本に参戦する密約を英米と交わしていた。ソ連は捕虜とした日本人60万人を強制労働させた。愚かな選択はなぜ？ 日本は世界情勢を分析するのが不得意？ 外交力が弱い？ 終り方を考えずに始めた戦争の悲劇を知ろう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

23. 焼け跡からの再建

日本の歴史を振り返ってみましょう。「元寇」など、日本が他国に攻め込まれたことはありました。「関東大震災」で首都が壊滅的な打撃を受けたことはありました。しかし、他国に占領されたことも、国中の多くの都市が破壊されたことも、1945年まではありませんでした。

みなさんの祖父母・曾祖父母の世代には、戦地において、あるいは当時の日本の植民地や占領地において敗戦の日を迎えた方もいると思います。「もう」80年近く前、あるいは「わずか」80年前か。いずれにせよ、みなさんは高校の歴史では現代史はあまり詳しく学ばなかったと思います。

しかし、戦争から敗戦、焼け跡からの復興の時代を学ぶことは、今の日本の原点を知ることです。政治体制が変わり、人々の意識が変わり、社会構造が大きく変わりました。英語に「フロム・スクラッチ」というフレーズがあります。かけっこで地面に引いたスタートラインからという意味です。戦後日本の再建はまさに何も無い廃墟から、みなさんの祖父母・曾祖父母の世代の努力によって成し遂げられたのです。

経済を牛耳っていた財閥が解体され、金持ちの資産が失われ、大地主に囲われていた農地が実際に耕す農民に安価に引き渡され、女性に参政権が与えられました。食糧はじめ物資が不足し、焼け出されて住む場所すらない人々もいましたが、社会を縛っていた軍国主義や極端な愛国主義から人々は解き放され、世の中に奇妙な解放感があふれていました。

厚生省(1977年当時)の推計によれば、戦争による日本人の死者数は80万の民間人を含め、310万。さらにアジア・太平洋諸国の多くの人々を巻き込みました。未曾有の規模の全面戦争でしたが、みなさんが下記の番組群を視れば、焼け跡での屈託のない笑顔にたくさん出会うでしょう。困難な時代を生き抜く日本人のたくましさ、しぶとさを感じ取れるでしょう。



NHK特集 激動の記録(日本ニュース)

【5回シリーズ】

昭和15年から20年までの日本ニュース264巻から、歴史の節目、決定的瞬間を厳選し、撮影したカメラマンたちの証言を交え、1979年、このシリーズは制作され、当時戦争体験者や若い世代、教育関係者などから大きな共感をもって迎えられた。現在の若者はこの5本シリーズから曾祖父母・祖父母の世代に日本人が何を経験したのか。やがて高度経済成長を迎える戦後日本の出発点を学ぶことができる。

NHK特集 激動の記録

③占領時代 日本ニュース 昭和21～23年



激動の世紀 第3部は占領時代。甲子園に野球が戻ってきた！戦争一色だったニュース映画の中身はガラリと変わり、政治、スポーツ、災害、犯罪など様々な題材を扱うように。浮浪者、外地からの引揚者、戦争未亡人…価値基準が一変し混乱する中、たくましく生き抜く日本人たちの姿。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

④復興途上 日本ニュース 昭和23～25年



第4部は復興途上。外国軍に占領された中、国民は食料不足やインフレに苦しんだ。殺人や麻薬といった犯罪が増加。不審な事件・事故も相次ぎ、日本全体に流れる不穏な空気が…。一方、30分ごとに挙式のある式場、繁盛する結婚紹介所、プラカードをかついで集団見合いへデモ行進する若者たち…そんな世相も描かれている。

⑤講和前夜 日本ニュース 昭和25～26年



第5部は講和前夜。朝鮮戦争が特需景気をもたらした。平和憲法を持つ日本に自衛隊の前身である警察予備隊が作られ、共産党が弾圧された。「戦争に負けて外交に勝つ」とは当時の吉田首相の言葉。日本はサンフランシスコ講和条約で国際世界に復帰するとともに、アメリカと安全保障条約を結ぶ。



シリーズ 欲望の経済史 日本戦後編 【6回シリーズ】

焼け跡から立ち上がり復興に向けてひた走り、短期間で豊かさを実現した日本の戦後。財閥解体、農地改革、傾斜生産方式、ドッジライン、高度経済成長、バブル…さまざまなトピックスがあったが、その背後にあった物語とは。案内役の野口悠紀雄(元大蔵官僚・経済学者)と聞き手の坂井豊貴(経済学者)のトークと、各時代の証言者の声から、戦後日本経済の光と影を再考する。

①焼け跡に残った戦時体制 終戦～50S



戦前と戦後を分けるのではなく、1940年代と捉えるべきだと野口は説く。政府が重点産業に集中して補助金を出した戦時経済体制は、戦後の復興をも支えた。太宰治が影響を受け、社会を根底から変えた「農地改革」とは？緊縮財政、朝鮮戦争による特需…紆余曲折を経ながら、焼け跡の未来は明るかった。

執念が生んだ新幹線 ～老友90歳・飛行機が姿を変えた～



東京-大阪間7時間半を3時間へ。旧陸海軍の3人の技術者による新幹線プロジェクト。流線形フォルム、衝撃吸収バネ、自動停止装置。戦争で培った技術を平和のために役立てたい！世界最速を目指した男たちの知られざる物語。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える

23 焼け跡からの再建

- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

24. 「高度経済成長」とは何だったのか

戦場となったヨーロッパでは、戦勝国でも敗戦国でも多くの人命が失われ、国土は荒廃しました。そしてやがて経済成長期を迎え、復興していきます。敗戦国だった日本も未曾有の高度経済成長を遂げ、1968年には戦場とならなかったアメリカに次ぐ、世界第2位の経済大国になります。その後2010年に中国に、2023年にはドイツに抜かれ、世界第4位になりますが、バブル崩壊後の「失われた20年」に生まれた皆さんには想像できない「右肩上がり」の時代を、みなさんの祖父母や両親は生きたのです。

去年より今年が、今年より来年が豊かな時代。しかし、この景気の良い時代に、今日まで影響を及ぼす社会問題が生まれました。産業が興隆した都市部への農村部からの人口の大移動は、過疎過密問題や、農山村の消滅につながります。交通渋滞や交通事故の多発などの都市問題も生まれます。産業優先の思想は、水俣病など公害問題を生みしました。

しかし、国富が増す中、多くの問題は解決に向かいます。物価上昇は賃金の上昇によって解決します。他の先進国と比較すると、貧富の差が比較的小さい「一億総中流社会」が生まれ、労働者の購買力が、さらに経済を底上げするという好循環が生まれます。省エネ技術の進化で2度にわたるオイル危機も乗り越えました。人命を尊重する思想が強まり、環境保護が謳われ、排気ガスが規制されました。

1950年代後半の「三種の神器」(白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫)から、1960年代半ばの「3C」(カラーテレビ・自動車・クーラー)へ。消費は拡大し、女性が担っていた家事労働が軽減され、家族で余暇を楽しめるようになりました。親の世代より子の世代が、物質的に恵まれる時代があったのです。

しかし今、親の世代より、豊かに暮らすことは難しくなっています。これは日本だけの現象ではありません。欧米の先進国では、大半の人々が、毎年豊かになる実感を持てずにいます。世界中で格差が広がっています。そして、社会の高齢化により、年金を受け取る世代と、保険料を支払い、高齢層を支える世代の格差も問題になっています。いまや、日本の高齢化率(65歳以上の人口比)は29%を超えました。まもなく、2人の労働人口が1人の高齢人口を支えなくてはならない時代が到来します。そして、国力の重要な指標である人口は2008年にピークを迎えた後、減少に転じ、今は約1億2,400万です。

容易ならざる時代を生き抜かなくてはならないみなさんです。80年前、焼け跡の中で準備された経済成長。番組を視聴すれば、日本のかつての成功の理由、そしてリバイバルのヒントを見つけられるかもしれません。



シリーズ 欲望の経済史 日本戦後編

【6回シリーズ】

焼け跡から立ち上がり復興に向けてひた走り、短期間で豊かさを実現した日本の戦後。財閥解体、農地改革、傾斜生産方式、ドッジライン、高度経済成長、バブル…さまざまなトピックスがあったが、その背後にあった物語とは。案内役の野口悠紀雄(元大蔵官僚・経済学者)と聞き手の坂井豊貴(経済学者)のトークと、各時代の証言者の声から、戦後日本経済の光と影を再考する。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建

24 「高度経済成長」とは何だったのか

- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

②奇跡の高度成長の裏で 60S



ボーナスが年4回！働くことで豊かになりモノがあふれた時代。テレビや自家用車、新卒一括採用、東京一極集中…今も続く日常生活や日本型企業スタイルはこの時に始まった。その裏で広がる地域格差、若者たちのカウンターカルチャー。ソニー創業者の一人・盛田昭夫が鳴らした警鐘とは？ GNP世界2位となった豊かな日本を待ち構えていたものとは？

③繁栄の光と影が交錯する 70S



三島由紀夫の割腹自殺・大阪万博で幕を開けた1970年代。ありあまる金で田中角栄は格差是正を図り、福祉を充実させた。それは果たして正しい選択だったのか？ オイルショックで高度経済成長に急ブレーキがかかり、公害問題に苦しんだ日本だったが、省エネ技術を発展させ、モノ作り大国として安定成長期を迎える。

④ジャパン・アズ・ナンバーワンの夢 80S



お金を得るには働かなくてはならないという価値観が揺らいた時代があった。バブル景気に沸く80年代である。生活必需品を手に入れた人々はブランドものを漁り、ディスコに押しかけ、地価が高騰した。バブルの引き金となった国際会議とは？ バブルの本質とは？「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と日本型経営が称えられた時代は、昭和の終わりからまもなく終わる。

⑤崩壊 失われた羅針盤 90S



就職が難しいのは今だけではない。バブル崩壊で繁栄は終わり、阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件が追い打ちをかけ、「就職氷河期」がやってきた。「失われた20年」という長いトンネルへと突入したのは、日本が世界のルールの変化に気づけなかったから？ 一方、携帯電話やパソコンが普及し、情報化社会が到来。人々の考え方が大きく変わっていった。

執念が生んだ新幹線 ～老友90歳・飛行機が姿を変えた～



東京-大阪間7時間半を3時間へ。旧陸海軍の3人の技術者による新幹線プロジェクト。流線形フォルム、衝撃吸収バネ、自動停止装置。戦争で培った技術を平和のために役立てたい！世界最速を目指した男たちの知られざる物語。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

25. 無名の挑戦者たち

NHKの「プロジェクトX 挑戦者たち」は2000年から2005年まで放送され、大きな反響を呼びました。

名もなき日本人を主人公に、新製品の研究開発、社会的事件、巨大プロジェクトなどに焦点を当て、その成功の陰にあった知られざるドラマを伝える、組織と群像の物語です。戦後日本の発展を支えたプロたちのたゆまない努力と葛藤。胃カメラ開発・緊急医療チームと、医学や看護を学ぶ方々に見て欲しい2本も提供しています。なお、2024年から「新プロジェクトX ～挑戦者たち～」が放送されています。

後続の「プロフェッショナル 仕事の流儀」は、2006年から放送が始まり、今も「旬の仕事人たちが」次々に登場する番組です。時代の最前線で活躍するその道のプロを取りあげ、彼らがどのように発想し、斬新な仕事をどう切り開くのかを、徹底した現場密着ドキュメントで描いています。

焼け跡から復興を遂げ、高度経済成長を支えた、市井の人々の物語。そして高いプロ意識を持ち、難題に挑む人々の物語。人口の減少や少子高齢化で、ともすると明るい未来を描くことのできない、若いみなさんに、困難に立ち向かう勇気と挑戦への気概を与えてくれるのではないのでしょうか。

プロジェクトX 挑戦者たち

海のダイヤ 世界初クロマグロ完全養殖



32年の苦闘！昭和40年代、マグロ人気が高まったが漁獲量が頭打ちに。立ち上がったのは近畿大学・水産研究所の“魚飼”たち。ふ化～産卵のサイクル全てを人工飼育！共食い、謎の衝突死、台風襲来…。「魚と共に生きる」男たちの前代未聞の挑戦を追う。

プロジェクトX 挑戦者たち

国産コンピューター ゼロからの大逆転 日本技術界 伝説のドラマ



「挑戦者に無理という言葉はない」「発想した時が勝負」。今回の主人公、“Mr.コンピューター”の言葉だ。コンピューター市場を制するものは世界を制す。巨大企業IBMに挑む富士通の伝説的ドラマ。

プロジェクトX 挑戦者たち

突破せよ 最強特許網 新コピー機 誕生



「何事もやってみれば天職かもしれない」。キヤノンの特許マンの言葉だ。国産コピー機誕生の裏には、難攻不落のアメリカ特許網を破った伝説の逆転劇があった！一つの模倣も許されない。完全オリジナル技術のコピー機を生み出した方法とは？

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

日米逆転! コンビニを作った素人たち



日本のコンビニ誕生秘話! 窓際の部署にいた30代サラリーマンが、アメリカで見つけたビジネスチャンスだったが、足元をみられ屈辱的な契約へ。もう後戻りは許されない。どん底の経営状況の中、15人の素人集団が起こした常識破りの流通革命とは?

ガンを探し出せ



ガン治療の最善策は早期発見、胃の中を直接見ることができれば…。世界初の胃カメラを完成させた男たちの物語。外科医・カメラ技術者・電球職人たち20~30代の若いチームが、実現不可能と言われたわずか数ミリの闘いへ。

地下鉄サリン 救急医療チーム 最後の決断



東京を襲った毒ガスによるテロ。「患者は全て受け入れる!」。院長の号令の元、医師たちが総力戦で治療に挑む。目が見えない、全身が震える。原因不明の症状を前に、救急医が下した究極の決断とは?

執念が生んだ新幹線 ~老友90歳・飛行機が姿を変えた~



東京-大阪間7時間半を3時間へ。旧陸海軍の3人の技術者による新幹線プロジェクト。流線形フォルム、衝撃吸収バネ、自動停止装置。戦争で培った技術を平和のために役立てたい! 世界最速を目指した男たちの知られざる物語。

中学校教師 鹿嶋真弓



「情熱がまず第一条件。そこに技がなくちゃ」。「女金八」と呼ばれる熱血教師と教え子たちの絆のドラマ。生徒同士で話し合う「エンカウンター」と呼ばれる教育法を駆使し、クラスのつながりを作る。受験の重圧に揺れる生徒たちに対し、彼女が打った最後の一手とは?

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア=最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い! 見るだけで“読む”!
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何?
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった?
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何?
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何?
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

小学校教師 菊池省三



「自信が人を伸ばす」。ディベート、スピーチ、ほめ言葉のシャワー……型破りな授業が子どもたちを変えていく。「伸びたい」気持ちが芽生えた子どもたちの背中を押し、困難を乗り越えられる人間を育てる。進化するため常に今を変えていく、すぐ腕教師の姿を追う。

WHO医師 進藤奈邦子



「危険の芽は小さいうちに握りつぶす」。トルコで発生した過去最大の鳥インフルエンザ。最悪のケースでは数百万人の死者も。現地の病院の医師たちは言葉や文化の違いから患者の情報をすぐには教えてくれない。ここが人類の防波堤。進藤の情熱が現地の医師の心を突き動かす。危険な最前線でパンデミックを食い止める闘いに密着。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

26. 患者に寄り添う「医」の心

日本人の2人に一人がかかる病とされるがん。

また、65歳以上の高齢者のうち3人に1人は、認知機能に関わる症状がある（認知症、認知症の前段階）とされています。そしてコロナ禍の中、誰もが医療の大切さを思い知らされました。

誰もが数々の「病」と向き合って生きる現代、「医」の在り方が変わりつつあります。

医師、看護師、そして患者が、いかに病と医療に向き合っているのか。その現場で取材した番組をラインアップしました。

自分も家族も患者となった時に何を感じるか。医学や看護を志す皆さんにも、是非ご覧いただきたい番組群です。

NHKスペシャル

認知症の第一人者が認知症になった



認知症と診断された時、人はどんな気持ちになるのか。物忘れが進み、徐々に進む症状と向き合う間、どんな思いを抱くのだろうか。長年認知症医療に取り組んだ専門医が、自らの認知症と向き合う姿を見つめたドキュメンタリー。誰もが認知症になり得る時代、認知症を知り、認知症と生きてゆくために、自らの認知症を語る言葉に耳を傾けよう。

TVシンポジウム

がんと生きる長い旅 治療・暮らし・人生（準備中）



日本人の2人に1人は何らかのがんになるといわれる。医療の進歩で“治るがん”が増えた一方、治療が長期間に及ぶこともあり、がん診断後の暮らしは“長い旅”に例えられる。副作用や後遺症、仕事や家庭での悩みなど、“長い旅”の中の苦しみにどう向き合うのか。治療の最前線に立つ医師とがん患者として発信を続ける4人が語り合う。カルテ開示など医療の側からの新しい動きも。

プロフェッショナル 仕事の流儀

がん看護専門看護師 田村恵子



「心残さず、生きる」。終末期のがん患者を支える看護のスペシャリストが、娘の結婚式を見届けたいと願う患者とその家族のため、出した答えとは？ ホスピス、その命の現場に迫る！

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ



「どんなに苦しくても向き合いながら一緒にいる」。高度な医療知識と技能を持ち、生命の危機にある患者と向き合う専門看護師のパイオニア。救えなかった幼い命、そして大切な友人の死を乗り越え、「希望をつなぐ」ことが自分の仕事の意味だと語る。



「リハビリは人生の再出発。それをサポートするのが私たちの医療」。40歳を過ぎて脳神経外科医からリハビリ医へ異色の転身。その思いとは？ どんなに困難なケースでも諦めずに、脳卒中患者の脳に残された可能性を引き出す。目指すのは「人間回復」だ。



他の病院で治療が難しいと言われ、ワラをもつかむ思いで訪ねてくる患者に、笑顔で向き合う。数々の難手術を成功させてきたが「手術は、恐ろしい」と出勤前にはお寺で手を合わせて成功を祈る。特殊な肺移植に挑むが、母親が提供する肺が6歳の少女の小さな胸に入るのか。家族と医師、絆のドラマに密着。



日本人の5人に1人が抱えるというヒザの痛み。人工関節移植の第一人者で、日本人の体格や生活習慣にあった人工関節の開発を進める杉本。従来の半分程度の切開という新手法で、ほとんどの患者が3週間ほどで再び歩けるまでに回復し退院する。手術は成功したものの、痛みを訴える患者。歩く喜びを取り戻すべく再手術に挑むが…。



腕は一流。しかし怖がりで心配性。それゆえ、通常縛る必要のない血管まで縛り、出血をとことん抑える。血の塊と言われる肝臓の手術の第一人者は「手術はいつも不安」と語り慎重で丁寧、かつあえて複雑な方法で執刀する。「細心に、仕事を全うして、途中で決して妥協せず、患者さんの利益を守る」。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ



「危険の芽は小さいうちに握りつぶす」。トルコで発生した過去最大の鳥インフルエンザ。最悪のケースでは数百万人の死者も。現地の病院の医師たちは言葉や文化の違いから患者の情報をすぐには教えてくれない。ここが人類の防波堤。進藤の情熱が現地の医師の心を突き動かす。危険な最前線でパンデミックを食い止める闘いに密着。

フロンティア

東洋医学とは何か



痛みや不調を改善するとされる鍼(はり)やお灸(きゅう)の「ツボ」。最近、全身の免疫機能に及ぼす驚きのメカニズムが明らかになってきた。アフリカで広がる結核患者の免疫機能アップのために「足三里」のツボを刺激するケアなど、世界的にも注目が集まっている。漢方薬の分野でも、腸内細菌の働きを介して腸の免疫機能を高めるメカニズムが明らかに。東洋医学と近代医学を融合させ未来の医療を模索する取り組みも始まっている。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

27. 自分自身を見つめる

ヒトの知的営為には、自分たちを取り囲むさまざまな事象がなぜ起きるのかを探ろうとする方向と、社会の一員である自分自身の心の中を探ろうとする方向があるようです。後者は宗教、道徳、哲学、文学と呼ばれます。「汝自身を知れ」とは古代ギリシャの格言で、西洋思想の中核を占める重要な概念です。

ローマ皇帝だったマルクス・アウレリウス・アントニウスは帝国の繁栄にかけりが見え始める中、戦場を駆け巡り、野営のテントの中で「君が求めるものは何だ」と自分自身に問いかけながら、折々の思いを綴りました。厳しい競争社会の中で、自分自身を見失いがちな現在。「自分の内を見よ。内にこそ善の泉がある」と説く哲人皇帝の声に、耳を傾けてみましょう。

ドイツの哲学者エマニュエル・カントは、近代科学が確立し、人間の理性が称えられる時代に、自然法則と同様に、絶対不変の道徳法則、誰しものが従うべき普遍的なルールがあるはずだと考えました。「私は何を知ることができるのか」を突き詰めて考えた主著『純粋理性批判』は教養人の必読書と言われながら、難解で読み通した方は少ないのではないのでしょうか。でも大丈夫。「100分de名著」を視聴して、やさしくかみ砕いたカント哲学の本質に触れてみてください。

チェコ・プラハのユダヤ人家庭に生まれたフランツ・カフカは、主人公がある日目覚めると一匹の虫になっていたという不条理極まりない設定で、ヒトの心の中、家族や社会と個人のかかわりをえぐりだして見せました。短い小説ですのでサクッと読み通すこともできますが、「100分de名著」では、暗く、かつ、おかしいこの小説の、深い読み方を伝授します。

オーストリアの心理学者アルフレッド・アドラーは「幸福とは何か」「いかに人は生きるべきか」と問いかけ続けました。人の悩みは対人関係にあるとし、「嫌われる勇気」をもつことも必要だと解きました。

「100分de名著」で取り上げた哲人皇帝、哲学者、文学者、心理学者による名著を、自分自身を見つめるよすがとしてください。



100分de名著 マルクス・アウレリウス『自省録』 【4回シリーズ】

ローマ皇帝だったマルクス・アウレリウスが自分自身に語りかけるように綴った名著を、本当の幸福とは何か、困難とどう向き合うか、死とは何か、といった普遍的なテーマに沿って読み解き、人生をより豊かに生きる糧としてください。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

マルクス・アウレリウス『自省録』 (1)自分の「内」を見よ



厳しい競争社会の中で、自分自身を見失いがちな現在。「自分の内を見よ。内にこそ善の泉がある」と説く哲人皇帝の声に耳を傾けてみよう。

マルクス・アウレリウス『自省録』 (2)「他者」と共生する



異民族の侵略や同胞の裏切りにもかかわらず、マルクス・アウレリウスは「寛容」を説き続けます。多民族国家を統治する知恵であるとともに、「すべての人間は普遍的理性を持つ限り、みな等しい同胞だ」とするコスモポリタン主義からでした。憎しみや対立を超え、寛容に生きる方法を学ぼう。

マルクス・アウレリウス『自省録』 (3)「困難」と向き合う

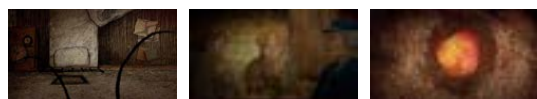


戦乱、疫病、妻子の死…自らにふりかかった困難にどう立ち向かえばよいのか。「それを気高く耐えることが幸福である」。自分ではどうすることもできない困難を運命として愛し、自分の意志で動かせることに誠実に取り組みと説きます。肉親の死は避け難い。誰もがそれを乗り越えてきたから、おまえにもできる。賢帝の教えです。

マルクス・アウレリウス『自省録』 (4)「今、ここ」を生きる



戦乱のただ中において、相次ぐ肉親の死にあったアウレリウスは「死とは何か」を思索し続けます。死を恐れず「一日一日をその日が最期の日であるかのように」誠実に生きよと勧めます。過去を悔いても甲斐はなし、未来は分からない。つかのまの今、ここを生きよう。生きづらい時代を生きる君たちに、普遍的な真理を語りかける名著を！



100分de名著

カフカ『変身』

【4回シリーズ】

老いた両親と妹を養っているセールスマンが、ある日目覚めると虫に変身していた。カフカはサラリーマンだったが、外に働きに行くのは大の苦手。虫になった主人公は作者の出世拒否願望の現れか。世間や家族のシガラミから自由になりたい あなたも虫かも。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

カフカ『変身』 (2)前に進む勇気が出ない



「仕事が嫌いだ」「ずっと引きこもっていたい」。繊細すぎて決断力のなかったカフカ。虫になった主人公は毎日寝て過ごし、壁や天井をはい回って遊ぶ日々を送る。家族を養う重圧や働く義務から解放されたら、ホッとするのだろうか。退避願望って、誰にでもあることでは。

カント『純粋理性批判』 (4)自由と道徳を基礎づける



理性の限界を突き詰めると「神の存在」や「魂の不滅」は証明できないことになります。科学が幅をきかせ、価値や自由などが居場所を失くしつつある中、カントは新しい道徳の復権を説きました。知識や科学だけでは解決できない「人間的価値や自由の世界」を見つめてみよう。



100分de名著

アドラー『人生の意味の心理学』

【4回シリーズ】

フロイトやユングと並んで心理学の三大巨頭と呼ばれるアルフレッド・アドラー。「幸福とは何なのか」「いかに人は生きるべきか」と問いかけ続けた。その心理学を、日本で広めた岸見一郎さんをゲスト講師に迎え、楽しい寸劇を交えて分かりやすく学んでいこう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

28. 恋に悩む若者たちよ

「Every dog has its day.」ということわざが英語にあります。

誰にでも絶頂期はあるという意味ですが、では、生物としてのヒトの絶頂期はいつでしょう。みなさんの世代です。20代半ばに体力も生殖力もピークを迎えます。もっとも、最新の研究では脳の発達が完成するのは30前後という研究もありますが。この絶頂期に、生き物はつがいを見つけ子孫を残します。

しかし、ヒトの場合、この絶頂期は危うい時期でもあります。皆さんの世代で一番多い死因は実は自殺です。この世代では、恋愛に悩んで命を絶つケースはあとを絶ちません。また失恋がきっかけとなって重篤な病になることもあります。甘美で、そして、辛く悲しいのが恋愛。その恋愛を科学の目で見てみましょう。

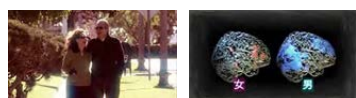
人間社会のなかでは男女差別というと、大抵の場合、男性優位で女性が様々な困難に合うことですが、実は最新の生物学・生物行動学では、男性は劣位なのです。性染色体で見ると男性はXY、女性はXXです。そして、Y染色体は消えつつあるという学説があります。いつ消えてしまうのか、数週間後かもしれないし、数千万年後かもしれないと専門家は言います。実はオスは付け足しの性で、メスだけでも子孫を残す種はたくさんいます。

「恋愛の賞味期限は3年」という説には多くの人が頷くと思います。ドーパミンという脳内物質が恋の情熱を支えています。最近の脳科学は熱情も沈着冷静さも物質に還元してしまいます。ドーパミンは長期間にわたって放出されるわけではなく、激しく燃えるような思いは長続きしません。しかしその後、子育てという共同プロジェクトをへて、安定したパートナーシップへと移行していきます。ほかの動物に比べ、赤ちゃんが一人前になるには長い時間がかかり、子育てを長期にわたって行わなくてはならないからです。

近年、人類社会では様々な恋愛の形が許容されるようになり、結婚しないことや子供を作らないことも、選択肢の一つとして認められるようになってきました。そして、男女の出会いの形も大きく変わりつつあります。お見合いを含め、周りがおぜん立てするケースは減り、社内恋愛が歓迎されないようになり、婚活パーティーといった新たな出会いの場が設けられるようになりました。コロナで男女が知り合う機会は減ってしまい、出会いの機会を作るアプリが次々と生まれ、さらにメタバースの世界で出会うシステムさえ作られています。

そして遠く1000年を超す昔、平安時代の恋愛事情にも触れてみてください。2025年度から、「源氏物語」「伊勢物語」を読み解く「100分de名著」をラインアップしました。光源氏と在原業平を通して描かれる恋の物語を、わかりやすい解説で感じてください。

番組を視聴して、恋愛を科学したり哲学したりしても、出会いの機会は増えないし、悩みや痛みが消えるわけでもありませんが、自分自身を客観的に見つめる手掛かりになるかもしれません。



NHKスペシャル 女と男 最新科学が読み解く性 【3回シリーズ】

男女はなぜ惹かれ合うのか、最新の脳科学は「恋」のメカニズムを解明しつつある。脳内物質ドーパミンが支える恋愛の「賞味期間」は3年ほど。子育て協力者から人生の伴侶へと変化していく男女関係を描く。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

第1回 惹かれ合う二人 すれ違う二人



恋愛の賞味期限は3年!? どうすれば長続きするのか? 女が悩みを相談するのは話を聞いて欲しいだけなのに、男は解決策を示そうとしてしまう。恋愛の正体は脳内物質ドーパミン!? 男女の違いは長い狩猟最終生活の名残り!? 「子育て協力者」から「人生のパートナー」へと変わる男女関係の“いま”を描く。

第2回 何が違う? なぜ違う?



地図の見方って男女で違うよね。男は空間感覚を生かし、女は記憶や目印を手がかりに地図を見る。脳が違うのは男女それぞれが得意なことをしてきたからだ。狩猟採取をしていた人類の祖先は、飢えと戦う中で、役割分担をして食糧を確保する道を探ってきた。医療や教育で性差に注目する潮流が生まれている。

第3回 男が消える? 人類も消える?



男を作るY染色体は減りつつある! この性染色体を運ぶ精子も劣化している! 一夫一婦性が長く続いたためだという。性システムの危機にどう対応すべきなのか。「試験官ベイビー」に始まった生殖技術の最前線もたどりながら、性の揺らぎのさまざまな影響を追う。

愛を科学する



あなたは異性のどこに惹かれますか? 外見、性格、経済力…でも最後に大事なのは体臭! キスは免疫力を高める!? 結婚は男性を長生きさせる!? 失恋は命にかかわる病気につながる!? 恋愛の意外なメカニズムを学び、健康で愛ある人生を送ろう。

欲望の時代の哲学 ～マルクス・ガブリエル日本に行く～



「今、幸せを感じなければ、幸せは訪れない」、「恋は探している時にしか見つからない」、「皆スマホの効率性に追いつめられている」。"哲学界のロックスター"ことマルクス・ガブリエルが独自の視点で日本人を語る。モノの見方は一つじゃない。自由に考えることこそ最上の価値。「哲学」の入り口をのぞいてみよう。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイバが高い! 見るだけで“読む”!
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何?
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった?
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何?
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何?
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ

アドラー『人生の意味の心理学』 第2回 自分を苦しめているものの正体



なぜ私たちは「自分が好きになれない」劣等感を抱くのだろうか。アドラーは「他人に拒絶されるくらいなら最初から関わらない方がマシ」と考え、「人間関係に傷つかない」ことを選んだ結果だとする。そして、それを転換し、自分自身の成長のバネにすることを提唱する。自分を苦しめているものの正体を探り、乗り越える方法を学ぼう。

紫式部『源氏物語』 第2回 あきらめる女 あきらめない女



シンデレラのように「玉の輿」に乗れたとしても、幸せとは限らない。嫉妬に狂う年上のインテリ女、幼い頃に無理やり連れ去られ、愛されながらも子を持たない女…光源氏に愛されたさまざまな境遇の女たちは、すべては手に入れられず、葛藤を抱えながら何かを諦めて生きている。女性にとって諦めの意味とは？

紫式部『源氏物語』 第4回 夢を見られない若者たち



光源氏の死後の「宇治十帖」は、恵まれた環境で育った草食系貴公子たち(光源氏の子と孫)と、宇治に暮らす3人の姫君たちが織りなす悲恋の物語。恋に苦しみ入水自殺を図った浮舟は、一見か弱く見えながら、しっかりと自我を見つめ、作者・紫式部が自己を投影させたとも言われる。現代の恋愛事情との共通点を探っていこう。

伊勢物語 第2回 愛の教科書、恋の指南書



天皇の后となる高貴な姫との駆け落ち。神に仕える斎宮とのタブーをいとわぬ禁断の恋。業平が繰り広げた数々の恋愛の物語を「愛の教科書」「恋の指南書」として読み解いてみよう。自分の恋情ではなく、相手の話に耳を傾け、相手の幸せを願う業平は、軽薄なだけのプレーボーイではありません。

INDEX

- 1 AIとロボットが変える世界
- 2 フロンティア＝最前線に立つ
- 3 平安時代を読み直す
- 4 タイパが高い！ 見るだけで“読む”！
- 5 映像はウソをつく!?
- 6 SNSの功罪
溢れる「情報」 失われる何か
- 7 気候変動について学ぼう
- 8 「ヒト」って何？
- 9 「進化」について考えてみよう
- 10 人体の不思議を学ぼう
- 11 農業・お金の発明でヒトは変わった？
- 12 伝染病と人類について考えよう
- 13 数理の好奇心を極める
- 14 「お金」って何？
「資本主義」ってどうよ
- 15 貧富の差について考えてみよう
- 16 権力者たちの思考回路
- 17 揺らぐ「民主主義」
- 18 「グローバル化」の功罪
- 19 スーパーパワー
アメリカの大統領たち
- 20 イスラム教って何？
- 21 移民と難民について考えてみよう
- 22 日本の「戦争」と「組織」
について考える
- 23 焼け跡からの再建
- 24 「高度経済成長」とは何だったのか
- 25 無名の挑戦者たち
- 26 患者に寄り添う「医」の心
- 27 自分自身を見つめる
- 28 恋に悩む若者たちよ